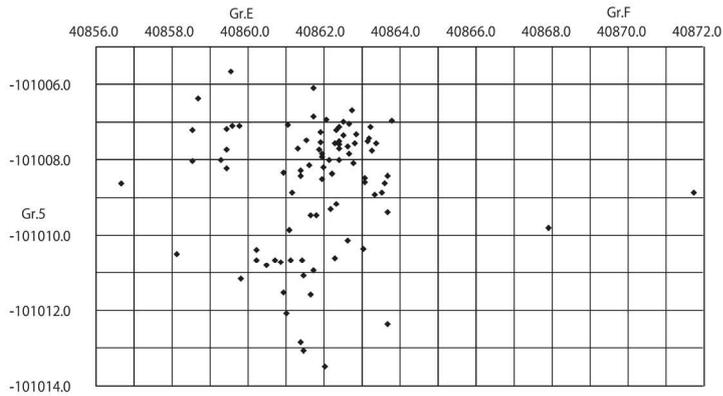
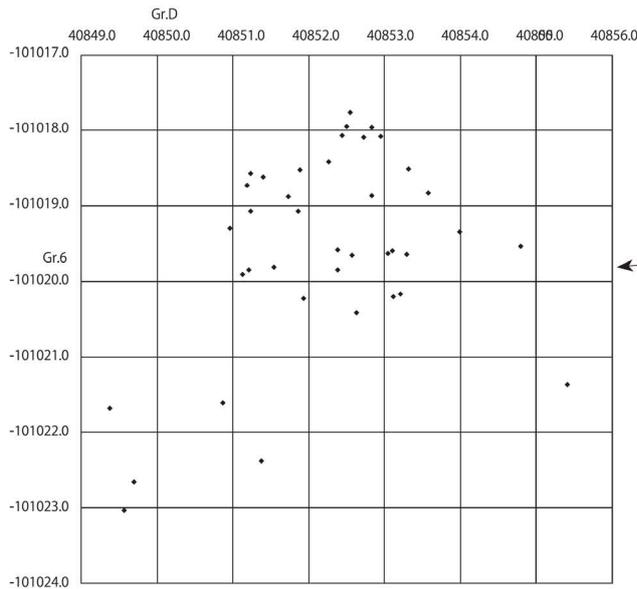


図47 縄文時代早期土坑2 (S= 1/30)



【SR 1 (S=1/200)】



【SR 1 (S=1/100)】

図 49 碎片分布

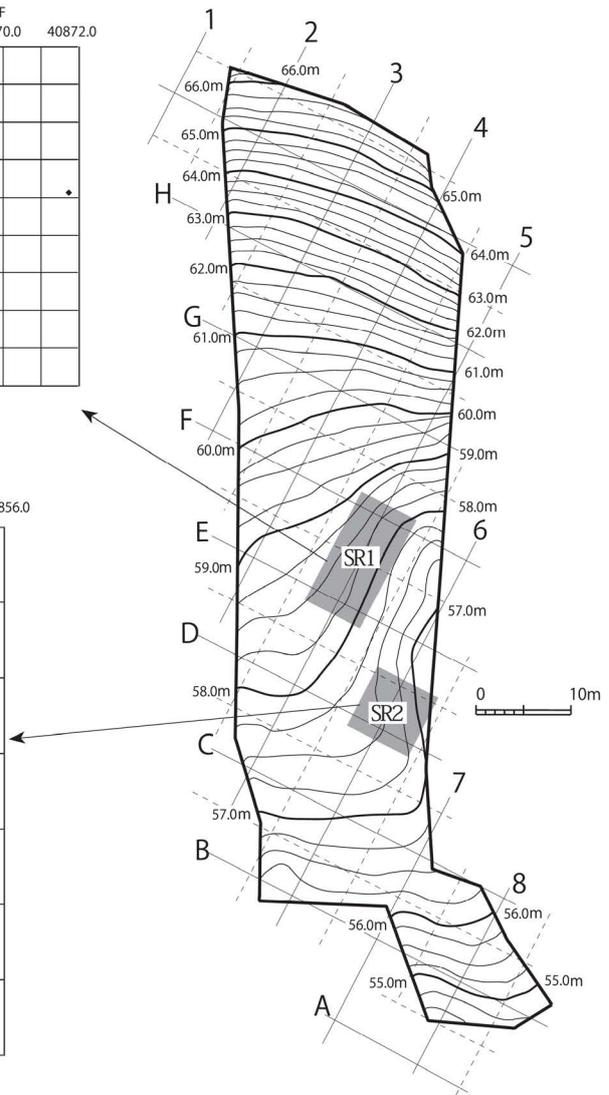


図 48 碎片集中箇所位置 (S = 1/800)

5 碎片集中箇所

散礫検出面において、石器碎片の集中箇所が2箇所確認された。E4c区に中心がある箇所をSR1、D5c区に中心がある箇所をSR2とする。

SR1及びSR2はIV層下部からV a層にかけての層位で検出された。しかし、SR1とSR2は散礫と重複せずに分布しているため、層位的に先後関係を判断するのは困難である。SR1とSR2ともに碎片に混じって少量だが土器片が出土しており、この土器から集石遺構などの時期とほぼ同じであったと考えられる。

周辺から黒曜石やチャートの石器未成品や石核が出土しており、石器製作跡であった可能性が高い。

【SR1 (図48・49)】

SR1は黒曜石の碎片が多い。調査区南側の緩斜面に位置しており、集石遺構の立地と異なる。また、他の遺構とまったく重複せずに分布している。

【SR2 (図48・49)】

SR2はチャートの碎片が多い。SR1より傾斜は緩やかな場所に位置する。西はSI44を中心とした集石遺構の一群と近接している。

表7 碎片一覽

【SR1】

番号	X座標	Y座標	Z座標	地区	石材	器種	特徴
1	-101012561	40863.576	57926	E 5 a	黒曜石	碎片	
2	-101013708	40861.899	57828	E 5 a	チャート	碎片	
3	-101013294	40861.345	57896	E 5 a	黒曜石	碎片	
4	-101013063	40861.282	57940	E 5 a	チャート	石鏝	
5	-101011756	40861.548	58089	E 5 a	黒曜石	碎片	
6	-101009510	40863.593	58274	E 4 c	黒曜石	碎片	
7	-101010496	40862.955	58176	E 5 a	黒曜石	碎片	
8	-101010296	40862.511	58236	E 5 a	黒曜石	碎片	
9	-101010778	40862.173	58203	E 5 a	黒曜石	碎片	
10	-101011099	40861.609	58177	E 5 a	黒曜石	碎片	
11	-101011250	40861.364	58180	E 5 a	黒曜石	碎片	
12	-101012271	40860.910	58040	E 5 a	黒曜石	剥片	
13	-101011691	40860.804	58089	E 5 a	黒曜石	碎片	
14	-101008518	40863.594	58377	E 4 c	黒曜石	碎片	
15	-101008721	40863.496	58360	E 4 c	黒曜石	碎片	
16	-101008981	40863.425	58366	E 4 c	黒曜石	剥片	
17	-101009045	40863.233	58352	E 4 c	黒曜石	碎片	
18	-101010820	40861.296	58210	E 5 a	黒曜石	碎片	
19	-101010808	40861.010	58251	E 5 a	頁岩	碎片	
20	-101010877	40860.740	58218	E 5 a	黒曜石	碎片	
21	-101011341	40859.680	58131	D 5 b	チャート	碎片	
22	-101008984	40871.727	58486	F 4 c	黒曜石	石鏝	図 55-60
23	-101009951	40867.869	58242	E 4 d	チャート	石鏝?	図 55-77
24	-101008710	40862.976	58390	E 4 c	黒曜石	碎片	
25	-101008589	40862.968	58402	E 4 c	黒曜石	碎片	
26	-101009293	40862.238	58342	E 4 c	黒曜石	剥片	
27	-101009424	40862.068	58343	E 4 c	黒曜石	剥片	
28	-101009596	40861.676	58336	E 4 c	黒曜石	碎片	
29	-101009601	40861.534	58333	E 4 c	黒曜石	碎片	
30	-101010013	40860.963	58322	E 5 b	黒曜石	碎片	
31	-101010818	40860.593	58250	E 5 a	黒曜石	碎片	
32	-101010966	40860.358	58210	E 5 a	黒曜石	碎片	
33	-101010817	40860.091	58234	E 5 a	黒曜石	碎片	
34	-101010543	40860.085	58265	E 5 a	黒曜石	剥片	
35	-101010638	40857.967	58240	D 5 b	頁岩	剥片	
36	-101007034	40863.687	58541	E 4 c	黒曜石	碎片	
37	-101007646	40863.295	58492	E 4 c	黒曜石	碎片	
38	-101007841	40863.157	58490	E 4 c	黒曜石	碎片	
39	-101007506	40863.100	58506	E 4 c	黒曜石	碎片	
40	-101007590	40863.070	58506	E 4 c	黒曜石	碎片	
41	-101007196	40863.128	58540	E 4 c	黒曜石	碎片	
42	-101007409	40862.753	58531	E 4 c	黒曜石	碎片	
43	-101007651	40862.718	58511	E 4 c	黒曜石	碎片	
44	-101007734	40862.505	58508	E 4 c	黒曜石	碎片	
45	-101007944	40862.542	58501	E 4 c	黒曜石	碎片	
46	-101008189	40862.668	58463	E 4 c	黒曜石	碎片	
47	-101008476	40862.103	58423	E 4 c	黒曜石	碎片	
48	-101008608	40861.824	58442	E 4 c	頁岩	スクレイパー	図 55-80
49	-101008995	40861.051	58382	E 4 c	黒曜石	碎片	
50	-101008430	40860.807	58466	E 4 c	黒曜石	碎片	
51	-101008534	40861.271	58431	E 4 c	黒曜石	碎片	
52	-101008382	40861.255	58457	E 4 c	チャート	碎片	
53	-101008236	40861.486	58459	E 4 c	黒曜石	碎片	
54	-101008306	40861.896	58425	E 4 c	黒曜石	碎片	
55	-101008098	40862.307	58450	E 4 c	黒曜石	碎片	
56	-101008115	40862.023	58470	E 4 c	黒曜石	碎片	
57	-101007787	40862.280	58489	E 4 c	黒曜石	碎片	
58	-101007687	40862.310	58536	E 4 c	黒曜石	碎片	
59	-101007663	40862.199	58522	E 4 c	黒曜石	碎片	
60	-101007583	40862.309	58508	E 4 c	黒曜石	碎片	
61	-101007428	40862.419	58520	E 4 c	黒曜石	碎片	
62	-101007126	40862.547	58557	E 4 c	黒曜石	碎片	
63	-101006753	40862.634	58591	E 4 c	黒曜石	剥片	
64	-101007045	40862.422	58543	E 4 c	黒曜石	碎片	
65	-101007198	40862.289	58568	E 4 c	黒曜石	碎片	

番号	X座標	Y座標	Z座標	地区	石材	器種	特徴
66	-101007292	40862.230	58520	E 4 c	黒曜石	碎片	
67	-101006994	40861.936	58542	E 4 c	頁岩	剥片	赤色
68	-101006913	40861.608	58537	E 4 c	黒曜石	碎片	
69	-101006142	40861.622	58588	E 4 c	黒曜石	碎片	
70	-101007151	40860.939	58522	E 4 c	チャート	剥片	黒色
71	-101007338	40861.808	58545	E 4 c	チャート	碎片	
72	-101007619	40861.785	58522	E 4 c	チャート	碎片	
73	-101007818	40861.767	58508	E 4 c	黒曜石	碎片	
74	-101007924	40861.854	58475	E 4 c	黒曜石	碎片	
75	-101008023	40861.856	58478	E 4 c	黒曜石	碎片	
76	-101007795	40861.189	58477	E 4 c	黒曜石	碎片	
77	-101007572	40861.439	58493	E 4 c	頁岩	剥片	赤色
78	-101007166	40859.638	58502	D 4 d	黒曜石	碎片	
79	-101007157	40859.451	58485	D 4 d	黒曜石	碎片	
80	-101007248	40859.304	58469	D 4 d	チャート	碎片	
81	-101006439	40858.561	58535	D 4 d	チャート	碎片	
82	-101005685	40859.430	58587	D 4 d	チャート	石鏝	図 55-70
83	-101007292	40858.402	58473	D 4 d	黒曜石	碎片	
84	-101007813	40859.290	58427	D 4 d	チャート	碎片	
85	-101008114	40859.156	58436	D 4 d	チャート	碎片	
86	-101008323	40859.303	58448	D 4 d	チャート	碎片	
87	-101008140	40858.408	58438	D 4 d	黒曜石	碎片	
88	-101008737	40856.517	58329	D 4 d	頁岩	碎片	

【SR2】

番号	X座標	Y座標	Z座標	地区	石材	器種	特徴
1	-101023032	40849.570	57317	C 6 b	チャート	碎片	
2	-101022653	40849.702	57355	C 6 b	チャート	碎片	
3	-101021673	40849.379	57425	C 6 b	チャート	碎片	
4	-101021611	40850.865	57369	D 6 a	チャート	碎片	
5	-101022378	40851.371	57314	D 6 a	チャート	剥片	
6	-101019908	40851.131	57416	D 5 c	チャート	碎片	
7	-101019845	40851.215	57421	D 5 c	チャート	碎片	
8	-101019301	40850.965	57471	D 5 c	チャート	碎片	
9	-101019808	40851.541	57377	D 5 c	黒曜石	碎片	
10	-101020226	40851.938	57362	D 6 a	チャート	碎片	
11	-101019073	40851.239	57473	D 5 c	チャート	碎片	
12	-101018729	40851.191	57505	D 5 c	チャート	剥片	
13	-101018572	40851.236	57520	D 5 c	頁岩	碎片	
14	-101018617	40851.403	57503	D 5 c	チャート	碎片	
15	-101018876	40851.727	57460	D 5 c	チャート	碎片	
16	-101019068	40851.857	57438	D 5 c	チャート	剥片	
17	-101018528	40851.884	57502	D 5 c	チャート	剥片	
18	-101018421	40852.258	57492	D 5 c	黒曜石	碎片	
19	-101018870	40852.835	57395	D 5 c	チャート	碎片	
20	-101019589	40852.379	57362	D 5 c	チャート	碎片	
21	-101019651	40852.570	57366	D 5 c	チャート	碎片	
22	-101019849	40852.384	57390	D 5 c	黒曜石	碎片	
23	-101020417	40852.634	57285	D 6 a	チャート	碎片	
24	-101020197	40853.120	57272	D 6 a	チャート	碎片	
25	-101020162	40853.210	57249	D 6 a	黒曜石	碎片	
26	-101019626	40853.045	57360	D 5 c	チャート	碎片	
27	-101019600	40853.102	57362	D 5 c	チャート	碎片	
28	-101019646	40853.292	57341	D 5 c	チャート	碎片	
29	-101017756	40852.548	57519	D 5 c	チャート	碎片	
30	-101017952	40852.497	57509	D 5 c	チャート	碎片	
31	-101018077	40852.442	57486	D 5 c	チャート	剥片	黒色
32	-101018091	40852.728	57475	D 5 c	チャート	碎片	
33	-101017964	40852.835	57495	D 5 c	チャート	碎片	
34	-101018079	40852.946	57460	D 5 c	チャート	碎片	
35	-101018513	40853.318	57423	D 5 c	チャート	碎片	
36	-101018836	40853.571	57407	D 5 c	チャート	剥片	
37	-101019348	40853.995	57346	D 5 c	頁岩	剥片	
38	-101019537	40854.797	57283	D 5 c	チャート	碎片	
39	-101021371	40855.411	56983	D 6 b	チャート	碎片	

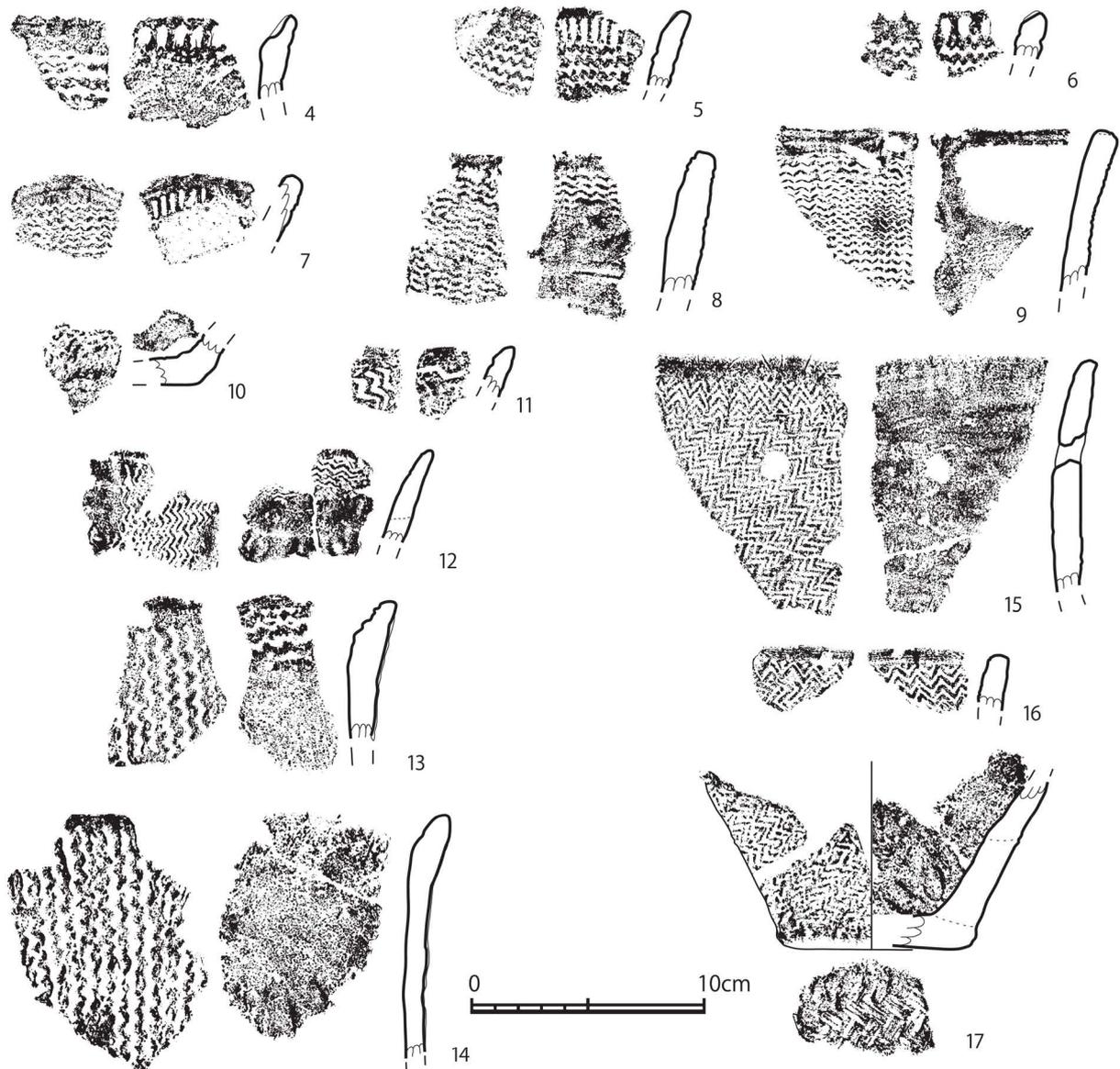


図 50 縄文時代早期土器 1 (S=1/3)

6 土器

縄文時代早期の土器は 4.5 箱分出土した。内掲載したものは 2.5 箱分、未掲載が 2 箱分である。全体的に小破片が多く、接合しても口径の復元が困難であった。遺物の出土位置・層位は散礫中、遺構内、V b 層中からであるが、原位置を保った遺物はない。

山形押型文土器、外面横方向施文

(図 50 4～10)

4 は内面口唇部に竹管状工具による刺突文が施される。7 は波状口縁の頂部である。8 の内面は押型文のみの施文である。10 は底部である。底部形態は平底である。

山形押型文、外面縦または不定方向施文

(図 11、12 11～19)

12 の外面は縦方向の施文であるが、部分的にナデ消す。13・14 の押型文は線が太く、胎土の特徴、文様が似る。13 は内面口唇部に横方向に施文するが、14 は施文しない。15～16 は線の細い押型文である。15・16 は胴部外面に斜方向に施文した後、口縁部付近を横方向に施文する。17 は底部であり、外面は底部付近まで施文され、底部には網代圧痕が残る。15・17 は胎土の特徴や文様が酷似しており、同一個体の可能性がある。18 は細かい山形押型文である。一部、文様が乱れ、楕円のように見える部分がある。19 は未貫通の補修孔が確認された。

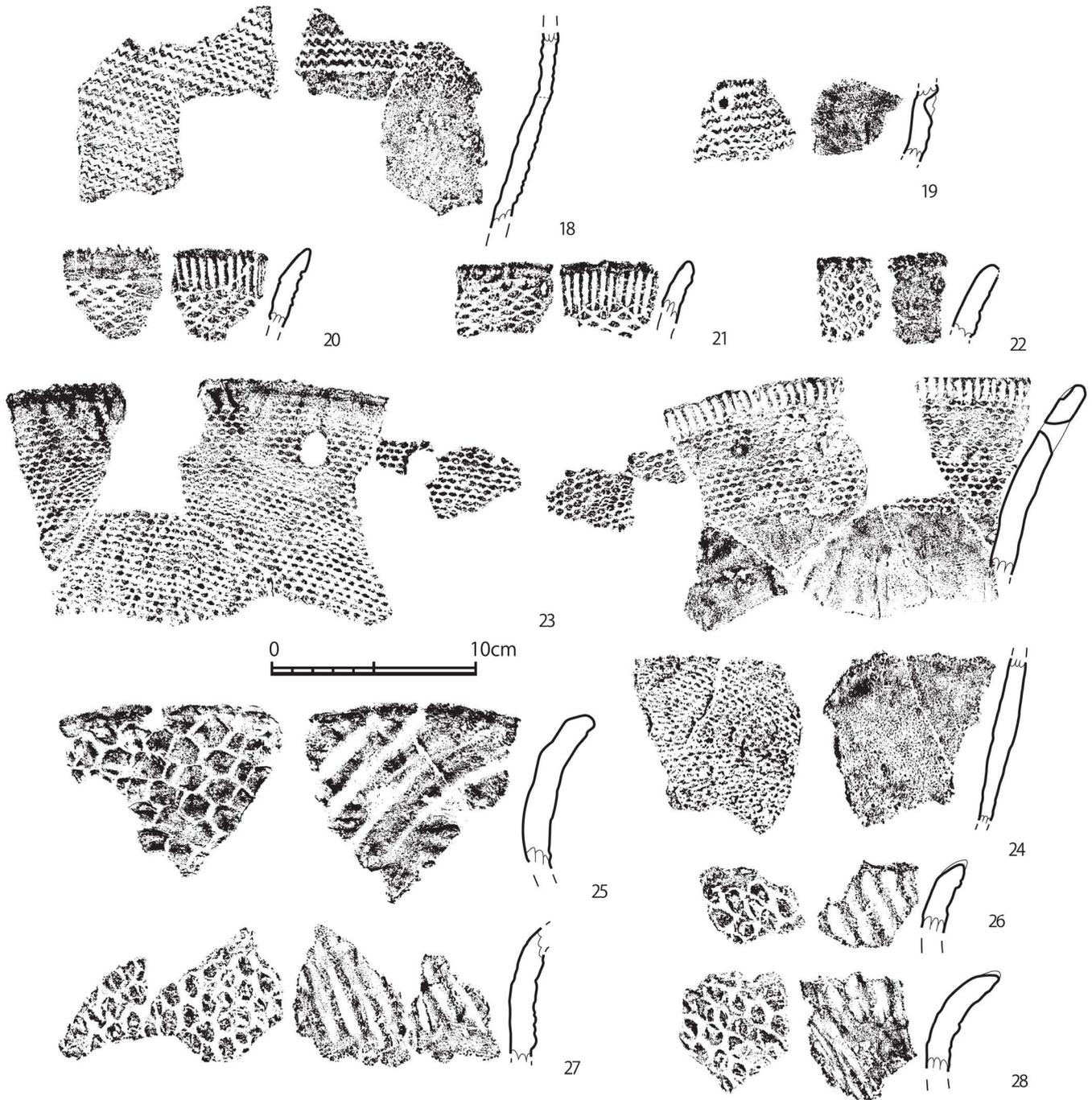


図 51 縄文時代早期土器 2 (S=1/3)

楕円押型文 (細粒)

(図 51、52 20～24、30～32)

23 は内外面ともに細粒の押型文が整然と施文される。補修孔が穿孔され、対応する補修孔を持つ破片も確認された。口縁は外反しつつ開く形態であり、器形や文様は下菅生 B 式に似る。24 は施文方向が様々であり、文様の一単位幅が確認できる。30 は部分的に文様がナデ消される。31・32 は径の狭い平底状の底部である。文様は底部まで及んでいる。

楕円押型文 (粗大粒)

(図 51、52 25～29)

25 は網目状の粗大な楕円押型文である。口縁は大きく外反しながら開く。器形と文様から高山寺式併行期のものであろうか。27～29 は粗大な楕円押型文土器である。内面には原体条痕が施されている。26 は 1 段、28 は 2 段である。口縁部は外反しつつ大きく開いており、器形と文様の特徴から田村ヤトコロ式に相当すると考えられる。

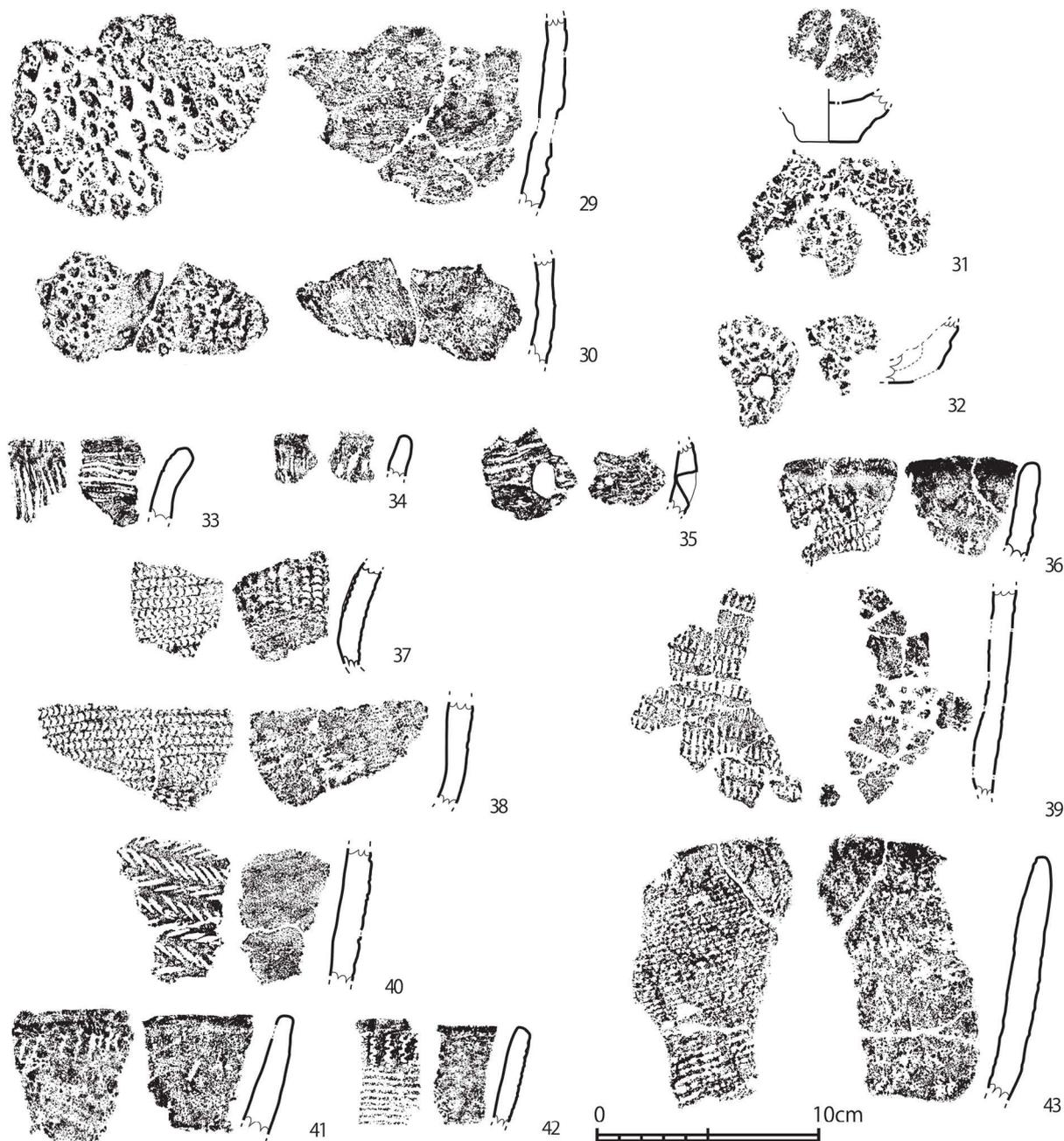


図 52 縄文時代早期土器 3 (S=1/3)

撚糸文・縄文土器 (図 52 33～36)

33、34 は撚糸文土器の口縁部である。33 は内面に外面と同一原体を用いて施文されている。34 の内面は原体条痕が施されている。36 は縄文土器である。

その他の押型文土器 (図 52 37～39)

37・38 は三日月形の押型文土器である。37 は口縁部付近の破片であり、内面に外面と同一原体による施文がなされている。施文方向は内面横、外面縦である。また、外面の拓本中央では三日月形が対称に位置しているため、施文方向が変化したと考えら

れる。39 は細長い長方形を一つの単位とする押型文である。格子目文に似るが、通有の格子目押型文に比べ、格子部分の幅が太く平坦である。

南九州貝殻円筒土器 (図 52 40)

40 は外面にを「ハ」字形 90 度倒した形で短沈線を施している。桑ノ丸式に相当する。

貝殻条痕文土器

(図 52～54 41～50、52～55)

41・42 は外面口縁部に貝殻腹縁刺突文を施す。41 はその下部に文様を施さないが、42 は横方向の



図 53 縄文時代早期土器 4 (S=1/3)

貝殻条痕を施す。前原式に相当する。43 は外面に貝殻腹縁の連続刺突文を施す。下剥峯式土器に相当する。44～45 は外面のほぼ全体に貝殻条痕を施す。胎土や文様の特徵から同一個体であると考えられる。これらの資料から全体の器形を推せば、口縁部はやや内湾し、底部は平底である円筒形の器形が復元できよう。貝殻条痕が横方向に施されているが、口縁部付近は方向が一定しない斜方向の施文である。重複関係から先に口縁部付近、次に胴部に施文する。胴部の施文は不完全で、若干空隙がある。内面の調整は粗く、指オサエの痕跡が明瞭に残る。底部は丁寧にナデ調整が行われている。器形調整の特徴から、南九州貝殻文円筒土器の範疇で捉えられるであろう。47・48 は摩耗が激しいが外面に斜方向の貝殻条痕が確認された。47 は口縁部が内湾し、48 は外反する。49・50・52 は外面に縦方向または斜方向の貝殻条痕が認められる。口縁部はやや外反するかほぼ直線的に開く。53～55 は底部である。54 は胎土に小孔が多く、スポンジ状である。また、底部は器壁に比して極端に厚い。52 は上げ底気味の底部である。外面の貝殻条痕は底部まで達する。この土器は底部内面で剥離しており、底部成形時に内面から粘土を追

加したようである。51 の口縁部は直線的に開き、口縁部外面は肥厚する。外面調整はナデである。しかし、胎土に小孔が多く、内面は丁寧にナデ調整が施されており、他の貝殻条痕文土器の特徴と似ている。
無文土器 (図 54 56)

内外面ともに丁寧にナデあるいは磨きが施されている、器厚が急激に厚くなっており、底部付近と考えられる。出土層位はV b層である。

不明 (図 54 57)

外面に5条一組の沈線文を格子状に施す。詳細は不明だが、文様から早期末の土器であろうか。



図 54 縄文時代早期土器 5 (S=1/3)

塞ノ神式土器 (図 54 58)

口縁部がラッパ状に開く塞ノ神式土器である。屈曲部下部に縦方向の撚糸文が見られる。この上から沈線文が施されており、沈線の中に撚糸文がわずかに見える。

土製品 (図 54 59)

59は散礫中から出土した。短い粘土ひもを折り曲

げ、先端を結合させたような形状である。中央は結合されておらず、中空になっている。底面と左側面は平坦である。中央部分は棒状のものをういた線が見られる。また、左側面には横方向に砂粒の動きが見られる。この土製品が単独で成り立つものか、別のものに付属していたものかは不明である。

表8 縄文時代早期土器一覽

番号	出土位置 区・遺構 層	種別	器種 部位	手法・調整・文様ほか		色調		胎土	備考
				外面	内面	外面	内面		
4	D4a	押型文土器(楕円)	深鉢口縁部	楕円押型文(横走)	口唇部付近縦方向短沈線	にぶい、橙色 75YR6/4	にぶい、橙色 75YR7/4	2mm以下灰色粒・白色粒 1mm以下淡黄色粒・雲母	短沈線は半截竹管状のもの。上から下に刺突。
5	C5b	V a	押型文土器(山形) 深鉢口縁部	山形押型文(横走)	山形押型文(口縁付近横走) 後にぶい、黄橙色 10YR6/3 口唇部付近に縦方向の短沈線	にぶい、黄橙色 10YR6/3	にぶい、黄橙色 10YR7/4	角閃石・1mm以下透明粒	
6	-	-	押型文土器(山形) 深鉢口縁部	山形押型文(横走)	山形押型文(横走) 後口唇部付近縦方向短沈線	にぶい、橙色 75YR7/4	にぶい、黄橙色 10YR7/3	角閃石 1mm以下透明粒	
7	D6a	V a	押型文土器(山形) 深鉢口縁部 (波状口縁)	山形押型文(横走)	口唇部付近縦方向短沈線	浅黄色 25YR7/3	浅黄色 25YR7/3	7mm灰白色粒 3mm以下灰白色粒 1mm以下灰白色粒・角閃石	
8	C5a	V b	押型文土器(山形) 深鉢口縁部	山形押型文(横走)	山形押型文(口縁部付近横走)・にぶい、黄橙色 10YR7/4 ナデ	にぶい、黄橙色 10YR7/4	にぶい、黄橙色 10YR7/4	9mm淡黄色粒 3mm赤褐色粒 1mm以下淡黄色粒・透明色粒	
9	B5d	V a	押型文土器(山形) 深鉢口縁部	山形押型文(横走)	ナデ	にぶい、黄橙色 10YR7/3	にぶい、黄橙色 10YR7/3	3mm以下乳白色粒 2mm以下灰色粒・光沢のある黑色粒	外面押型文に乱れ有り。 焼成前に棒状工具が当たった痕跡あり。
10	C4c	押型文土器(山形) 深鉢底部	山形押型文(横走)	ナデ	にぶい、橙色 75YR7/4	にぶい、黄橙色 10YR6/3	5mm以下白色粒 2.5mm以下黑色粒・雲母		
11	C5b	押型文土器(山形) 深鉢口縁部	山形押型文(縦走)	山形押型文(横走)	にぶい、褐色 75YR5/3	にぶい、褐色 75YR7/3	3mm以下灰白色粒 2mm以下灰色粒・角閃石		
12	D4b+E4c	押型文土器(山形) 深鉢口縁部	山形押型文(縦走)	山形押型文(横走口唇部付近)	明褐色 75YR5/6	明褐色 75YR5/6	2mm以下透明粒 1mm以下灰色粒		
13	C5c	押型文土器(山形) 深鉢口縁部	山形押型文(縦走)	山形押型文(口唇部付近横走) ナデ	にぶい、褐色 75YR5/4	暗褐色 75YR3/4	4mm以下灰色粒 2mm以下黑色粒・透明色粒・乳白色粒	押型文はミミス腫れ状	
14	B6b	押型文土器(山形) 深鉢口縁部	山形押型文(縦走)	山形押型文(口唇部付近横走)	にぶい、橙色 5YR6/4	にぶい、黄橙色 10YR6/4	4mm以下乳白色粒 2mm以下透明色粒・灰色粒・角閃石		
15	B5d	V a	押型文土器(山形) 深鉢口縁部	山形押型文(胴部斜走 後口縁付近横走)	ナデ	にぶい、黄橙色 10YR7/4	褐色 75YR7/6	1mm以下乳白色粒・透明色粒	補修孔は内外面両方から穿孔。先後関係は不明。 外面は斜め下方から、内面は斜め上方から穿孔。
16	C5b	押型文土器(山形) 深鉢口縁部	山形押型文(縦走後 口唇付近横走)	山形押型文(横走)	褐色 75YR7/6	褐色 75YR7/6	角閃石 1mm以下透明粒		
17	B5d+SP1	押型文土器(山形) 深鉢底部	山形押型文(斜走)	ナデ	にぶい、橙色 75YR7/4	褐灰色 75YR4/1	2mm以下乳白色粒・赤褐色粒 1mm以下灰色粒	底部に網代瓦痕。復元底径 7.6cm。	
18	C5d+SP5	押型文土器(山形) 深鉢胴部	山形押型文(横走)	山形押型文(口縁部付近横走)	にぶい、黄橙色 10YR7/3	暗褐色 10YR3/4	4mm以下にぶい、褐色粒 3mm以下白色粒 2mm以下黑色粒・角閃石	山形押型文が乱れている	
19	S234	押型文土器(山形) 深鉢口縁部付近	山形押型文(横走)	ナデ	にぶい、黄橙色 10YR7/4	灰黄褐色 10YR5/2	5mm以下黄橙色粒・1mm以下白色粒・角閃石	未貫通補修孔あり	
20	C4c	押型文土器(楕円) 深鉢口縁部	楕円押型文(横走)	短沈線(口縁部付近)	にぶい、橙色 75YR6/4	褐灰色 75YR4/1	2mm以下乳白色粒・灰色粒・角閃石		
21	C4c	押型文土器(楕円) 深鉢口縁部	楕円押型文(横走)	口唇部付近縦方向短沈線 下楕円押型文	にぶい、橙色 75YR6/4	褐灰色 75YR4/1	1mm以下黑色粒・透明粒・乳白色粒・角閃石		
22	D5d	押型文土器(楕円) 深鉢口縁部	楕円押型文(縦方向)	ナデ	にぶい、赤褐色 5YR5/4	にぶい、赤褐色 5YR5/4	2mm以下浅黄褐色粒		
23	B6b+B6c +C6b+S39	押型文土器(楕円) 深鉢口縁部	楕円押型文(横走)	口唇部付近縦方向短沈線 下楕円押型文(横走)	にぶい、黄褐色 10YR7/2	にぶい、褐色 75YR5/3	2mm以下乳白色粒・角閃石・微細灰黄褐色粒	補修孔あり	
24	B6b	押型文土器(楕円) 深鉢胴部	楕円押型文(横走)	ナデ	にぶい、橙色 5YR7/4	にぶい、黄褐色 10YR5/3	4mm以下乳白色粒・微細にぶい、褐色粒・角閃石	内面に煤付着	
25	B7b	押型文土器(楕円) 深鉢口縁部	楕円押型文(横走)	原体条痕(斜走)	にぶい、黄褐色 10YR7/3	にぶい、褐色 75YR7/3	5mm灰白色粒・明褐色粒 2mm以下褐色粒・乳白色粒	高山寺式併行か	
26	D4d	押型文土器(楕円) 深鉢口縁部	楕円押型文(斜走)	原体条痕1段?(斜走)	灰黄褐色 10YR6/2	にぶい、褐色 75YR6/3	6mm灰色粒 5mm以下黄褐色粒 1mm以下乳白色粒・角閃石	破片であるため原体条痕の段数は不確実	

27	D4d	押型文土器(楕円)	深鉢口縁部付近	楕円押型文(横走)	原体条痕1段?(斜走)	灰黄褐色 10YR5/2	灰黄褐色 10YR6/2	2.5mm以下にこぶし、黄橙色粒・角閃石		
28	D4d	押型文土器(楕円)	深鉢口縁部	楕円押型文(横走)	原体条痕2段(斜走)	橙色 7.5YR7/6	にこぶし、黄褐色 10YR7/3	角閃石 1mm以下透明粒・乳白色粒	原体条痕は上段→下段	
29	E4a+E4c	押型文土器(楕円)	深鉢胴部	楕円押型文(縦走)	ナデ	にこぶし、褐色 7.5YR6/4	にこぶし、黄褐色 10YR6/2	2.5mm以下の灰黄色粒・角閃石		
30	D4d	押型文土器(楕円)	深鉢胴部	楕円押型文(斜走)	ナデ	にこぶし、褐色 7.5YR7/4	灰黄褐色粒 10YR5/2	2mm以下灰色粒 0.5mm以下浅黄褐色粒・黒色粒	内面に煤付着	
31	E4	押型文土器(楕円)	深鉢底部	楕円押型文(縦走)	不明	にこぶし、褐色 7.5YR5/4	にこぶし、赤褐色 5YR5/4	0.5mm以下明褐色粒・微細乳白色粒		
32	C6cd	押型文土器(楕円)	深鉢底部	楕円押型文	ナデ	にこぶし、褐色 7.5YR6/4	にこぶし、黄褐色 10YR6/4	微細灰黄色粒	底径 2.7cm	
33	E3d	撚糸文系	深鉢口縁部	撚糸文(縦走)	口唇部付近(横走)	にこぶし、赤褐色 5YR5/4	にこぶし、赤褐色 5YR5/4	1.5mm以下暗赤灰色粒・角閃石・微細灰白色粒		
34	C5c	撚糸文系	鉢口縁部	撚糸文	原体条痕	にこぶし、赤褐色 5YR5/4	にこぶし、赤褐色 5YR5/4	1mm以下浅黄褐色粒		
35	-	撚糸文系	深鉢口縁部付近	撚糸文	ナデ	明赤褐色 5YR5/6	にこぶし、赤褐色 5YR4/3	2mm以下にこぶし、橙色粒・微細透明光沢粒	補修孔有り(外→内)	
36	E5a	撚糸文系	深鉢口縁部	撚糸文	ナデ	にこぶし、褐色 7.5YR6/4	にこぶし、褐色 7.5YR5/4	1mm以下灰色粒・微細な光沢粒		
37	D4d	押型文土器	深鉢口縁部付近	原体不明押型文(縦走)	押型文(外面と同一原体 横走)	灰黄色 2.5Y7/2	にこぶし、黄褐色 10YR7/3	4.5mm以下灰白色粒 4mm以下褐灰色粒		
38	E3c	押型文?	深鉢胴部	原体不明押型文	ナデ	灰黄色 2.5Y6/2	灰黄色 2.5Y7/2	4mm以下灰白色粒 3mm以下明黄褐色粒・角閃石		
39	SP4	押型文土器	深鉢胴部	原体不明	ナデ	にこぶし、赤褐色 5YR5/3	にこぶし、赤褐色 5YR5/3	3mm以下褐灰色粒 1.5mm以下灰白色粒	ネガティブ押型文か?	
40	B5b+D4d	貝殻文系	深鉢胴部	へら描きによる綾杉文	ナデ	にこぶし、褐色 7.5YR6/4	にこぶし、褐色 7.5YR5/3	5mm以下灰白色粒 2mm以下浅黄褐色粒	桑ノ丸式仕タイプ	
41	D4c	貝殻文系	深鉢口縁部	縦位貝殻腹縁刺突文	ナデ	にこぶし、黄褐色 10YR6/3	にこぶし、黄褐色 10YR6/3	1mm以下乳白色粒・にこぶし、黄褐色粒・にこぶし、橙色粒		
42	SK3	貝殻文系	深鉢口縁部	口唇部付近縦位貝殻腹縁刺突文 下横方向貝殻条痕	ナデ	浅黄色 2.5YR7/3	にこぶし、黄色 2.5YR6/3	1mm以下灰白色粒		
43	D4b	貝殻条痕文土器	深鉢口縁部	貝殻押印(き(横方向)	ナデ	にこぶし、褐色 7.5YR7/4	灰白色 10YR8/2	4mm以下にこぶし、褐色粒 3mm以下灰白色粒 3.5mm以下乳白色粒・角閃石		
44	B6b+B6d	V a	貝殻条痕文土器	深鉢口縁部	貝殻条痕	ナデ・指オサエ	にこぶし、赤褐色 5YR5/4	にこぶし、黄褐色 10YR5/4	7mm以下灰白色粒 3mm以下乳白色粒 1mm下灰色粒・光沢のある黒色粒	21・20と同一個体が 補修孔有り
45	B6c+B6d	V a	貝殻条痕文土器	深鉢胴部	貝殻条痕	ナデ・指オサエ	褐色 7.5YR4/6	褐色 7.5YR4/6	6mm以下淡黄色粒 2mm以下透明粒 1mm以下光沢のある黒色粒	19・21と同一個体が
46	B6a+B6c+C6d	V a	貝殻条痕文土器	深鉢底部	ナデ	丁寧ナデ・指オサエ	橙色 7.5YR6/6	にこぶし、褐色 7.5YR6/4	9mm以下乳白色粒 6mm以下灰褐色粒 1mm以下黒色粒	復元底径 1.7cm
47	B7b	貝殻条痕文土器	深鉢口縁部～胴部	貝殻条痕	ナデ	にこぶし、褐色 7.5YR6/4	にこぶし、褐色 5Y6/4	2mm以下灰白色粒・乳白色粒・黒色粒・灰色粒	復元口径 13.2cm	
48	C5c+C5c +C6c+SB1	貝殻条痕文土器	口縁部	貝殻条痕	ナデ	にこぶし、黄褐色 10YR7/3	にこぶし、黄褐色 10YR7/4	3mm以下にこぶし、黄褐色粒 1mm以下灰白色粒・微細透明光沢粒	復元口径 18.6cm	
49	C6a	貝殻条痕文土器	深鉢口縁部	縦位貝殻条痕刺突文	ナデ	浅黄色 2.5Y7/3	浅黄色 2.5Y7/3	2mm以下灰白色粒・微細光沢透明粒		
50	D3d	貝殻文系	深鉢口縁部	斜位貝殻腹縁刺突文	ナデ	にこぶし、黄褐色 10YR7/3	灰黄褐色 0YR5/2	3.5mm以下にこぶし、褐色粒 3mm以下黒褐色粒 1mm以下灰白色粒・微細光沢粒		
51	C6d	無文土器	深鉢口縁部	ナデ	ナデ	灰黄褐色 10YR5/2	にこぶし、黄褐色 10YR5/3	2mm以下黒色粒・透明粒	復元口径 15.8cm	
52	C6c	貝殻条痕文土器	深鉢口縁部	貝殻条痕	ナデ	にこぶし、黄褐色 10YR3	暗灰黄色 5YR5/2	微細灰白色粒	補修孔は内外面から穿孔(先後不明) 復元口径 10.8cm	
53	D4c	貝殻条痕文土器	深鉢底部付近	貝殻条痕(横方向)	ナデ	にこぶし、黄褐色 10YR7/3	灰黄色 2.5YR6/2	5mm以下灰黄色粒		
54	C5c	貝殻条痕文土器?	深鉢底部	不明	ナデ	にこぶし、褐色 7.5YR7/4	にこぶし、黄褐色 10YR7/4	3mm以下褐灰色粒 2mm以下明褐灰色粒	胎土はスポンジ状、小孔多し。復元口径 5.2cm	
55	D4d+D4b	貝殻条痕文土器	深鉢底部	貝殻条痕	ナデ	にこぶし、黄褐色 10YR7/3	黄灰長期間色 2.5YR4/1	5mm以下黄灰色粒 1.5mm以下灰白色粒	復元口径 5.8cm	
56	C6cd	無文土器	深鉢底部付近	丁寧なナデ	丁寧なナデ	にこぶし、褐色 7.5YR6/4	明赤褐色 5YR5/6	1mm以下透明光沢粒・灰白色粒・褐灰色粒		
57	C4+SP4	無文土器	深鉢胴部	沈線文	ナデ	明赤褐色 5YR5/6	にこぶし、赤褐色 5YR5/4	2mm以下灰白色粒・黒色粒 1mm以下透明粒		
58	F5d	撚糸文系	深鉢胴部	撚糸文後沈線文	ナデ	にこぶし、褐色 7.5YR6/4	にこぶし、黄褐色 10YR6/3	1mm以下透明粒・黒褐色粒・雲母	塞ノ神式	

表9 縄文時代早期石器一覧

番号	出土位置		石材	最大値(cm)			重量(g)	器種	観察所見
	区・遺構	層		長	幅	厚			
60	SR1-22	-	黒曜石	1.3	1.2	0.2	0.3	石鏃	
61	-	-	チャート	1.7	1.4	0.2	0.3	石鏃	
62	SP4-6	-	チャート	1.3	1.5	0.3	0.5	石鏃	
63	B7d	V a	流紋岩	2.3	1.6	0.4	0.9	石鏃	未成品、97と同石材
64	C6c	V a	チャート	3.8	1.3	0.4	1.7	石鏃	未成品か
65	B5d	V b	黒曜石	1.4	1.4	0.3	0.3	石鏃	
66	F4c	V b	黒曜石	1.5	1.6	0.4	0.4	石鏃	
67	-	-	チャート	1.8	1.3	0.3	0.4	石鏃	
68	D5a	V a	チャート	2.1	1.9	0.3	0.9	石鏃	完形
69	C6a	V a	頁岩	3.5	2.0	0.4	1.7	石鏃	
70	SR1-82	-	チャート	2.0	1.8	0.5	1.0	石鏃	
71	SR1-4	-	チャート	1.9	1.8	0.4	0.7	石鏃	
72	C6b	V a	チャート	0.8	2.1	0.5	2.0	石鏃	
73	A7d	V b	チャート	2.6	1.7	0.3	0.9	石鏃	
74	C4d	V a	チャート	0.5	2.0	0.5	1.8	石鏃	
75	B5d	V a	黒曜石	2.0	1.4	0.7	1.3	石鏃	完形
76	D4b	V b	チャート	2.1	2.1	0.7	3.0	石鏃?	未成品か
77	SR1-23	-	チャート	3.4	2.2	1.1	7.9	石鏃?	未成品か
78	D5a	V b	黒曜石	2.1	1.0	0.3	0.5	石鏃	
79	SQ209	-	黒曜石	1.3	1.9	0.4	0.7	石鏃	
80	SR1-48	-	頁岩	2.9	3.8	0.7	5.0	スクレイパー	
81	B7b	V a	流紋岩	3.1	3.8	0.9	7.4	剥片	
82	B6d	V a	流紋岩	4.8	3.4	1.1	18.6	二次加工剥片	
83	B7b	V a	流紋岩	5.0	4.3	1.7	25.2	剥片	
84	C6c	V a	ホルンフェルス	8.7	7.4	2.3	160.7	剥片	
85	D5b	V b	ホルンフェルス	9.7	5.8	2.3	138.9	剥片	
86	B5b	V b	チャート	1.7	3.2	1.0	3.9	二次加工剥片	
87	SP4	-	黒曜石	1.7	1.5	0.9	2.2	石核	
88	C5c	V a	黒曜石	2.0	2.9	1.2	5.7	石核	
89	D5a	V a	ホルンフェルス	8.2	4.0	1.6	57.5	石斧	
90	C5b	V a	砂岩	11.9	4.7	3.4	230.0	石斧	
91	B6b	V a	ホルンフェルス	12.6	4.6	2.5	94.3	石斧	大部分欠損
92	C6c	V a	ホルンフェルス	10.8	7.5	3.0	270.0	二次加工剥片	
93	-	-	ホルンフェルス	10.9	8.9	3.3	367.0	石核	
94	C6a	V a	ホルンフェルス	13.9	11.5	3.2	620.0	石核	
95	C6a	V a	ホルンフェルス	9.5	4.5	0.3	150.0	二次加工剥片	
96	C6b	V a	ホルンフェルス	8.4	5.1	4.2	185.3	石核	
97	B6c	V a	流紋岩	10.3	8.9	3.8	538.0	石核	線状痕多数あり
98	D3d	V a	砂岩	11.0	8.7	4.4	526.9	凹石	
99	-	-	尾鈴山酸性岩類	9.0	8.5	4.1	486.9	磨石	
100	S102	-	尾鈴山酸性岩類	10.4	10.6	5.0	824.3	磨石	
101	C6c	V a	砂岩	10.3	5.4	4.3	336.2	敲石	
102	C5c	V a	砂岩	13.6	6.1	4.0	494.5	敲石	赤色顔料?付着
103	S103	-	尾鈴山酸性岩類	1.8	9.7	5.4	845.8	磨石	
104	C5d	V a	尾鈴山酸性岩類	9.8	9.7	4.7	673.8	磨石	
105	C6a	V a	尾鈴山酸性岩類	11.3	8.7	5.5	760.1	磨石	欠損あり
106	S303	-	砂岩	11.5	9.8	4.0	636.3	不明	赤色顔料?付着

7 石器

今回調査における縄文時代早期石器の出土量は85箱である。内掲載したものは1.5箱分、未掲載が7箱分である。遺物の出土位置・層位は散礫中、遺構内、V b層中からであるが、原位置を保った状態で出土した資料はないため、接合は行っていない。

石鏃(60～75)は18点出土した。石材は黒曜石4点、チャート12点、他2点である。未成品も含まれることから、遺跡内での製作が予想される。89～91は磨製石斧である。89・90は素材の礫を粗く

打ち欠いて全体の形を作り出すが、背面は礫面を残し、刃部のみ研磨している。89は柄の装着部分が、90は刃部が欠損しており、使用・欠損の結果廃棄されたと考えられる。99～105は磨石・敲石である。磨石は尾鈴山酸性岩類が主体である。102・106は赤色顔料のようなものが付着していた。色調はくすんだ赤色であり、顔料であればベンガラの種類であろうか。被熱・加熱により何らかの成分が凝固して付着した可能性もある。自然科学分析は実施していない。

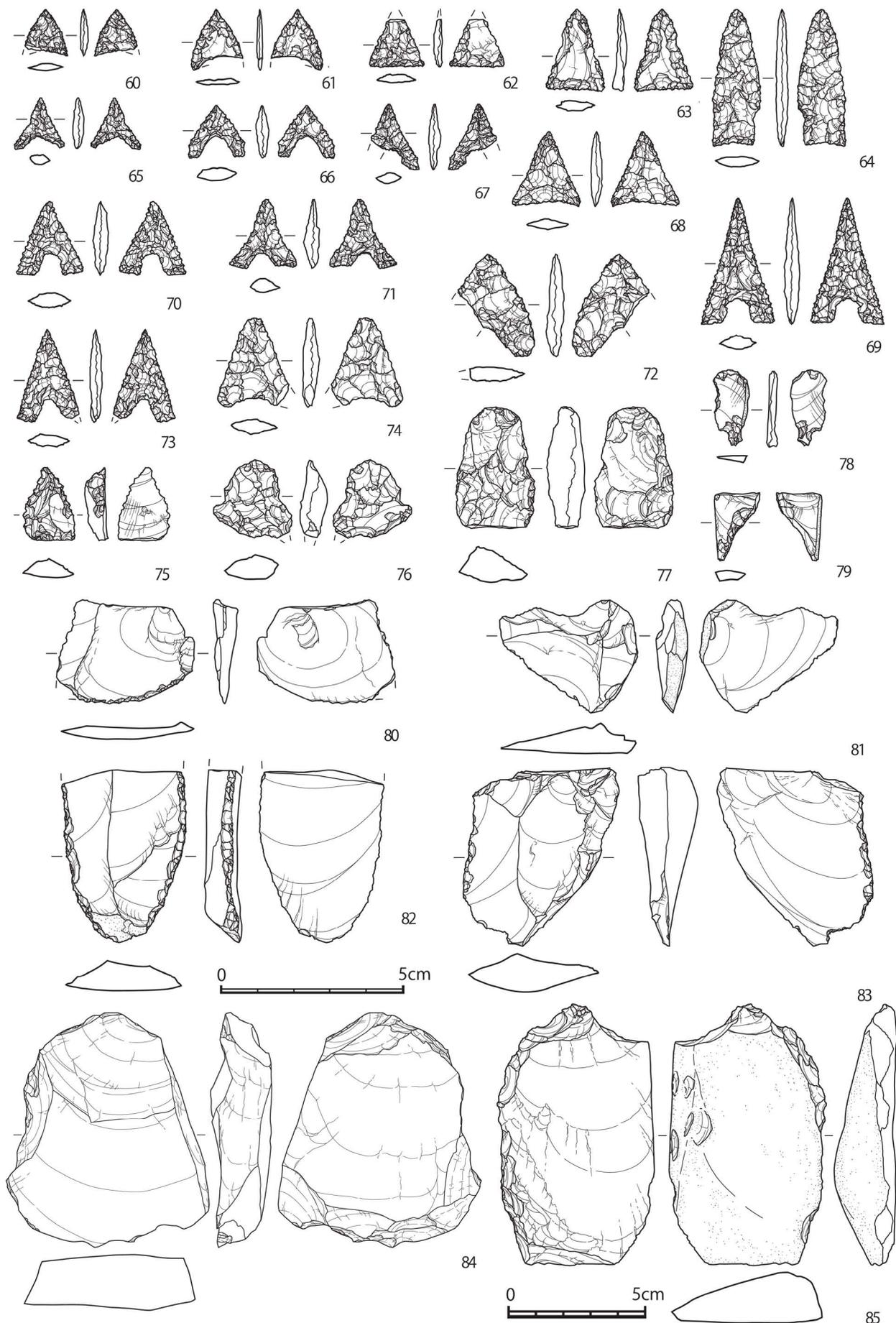


図 55 縄文時代早期石器 1 (60～84はS=2/3、85はS=1/2)

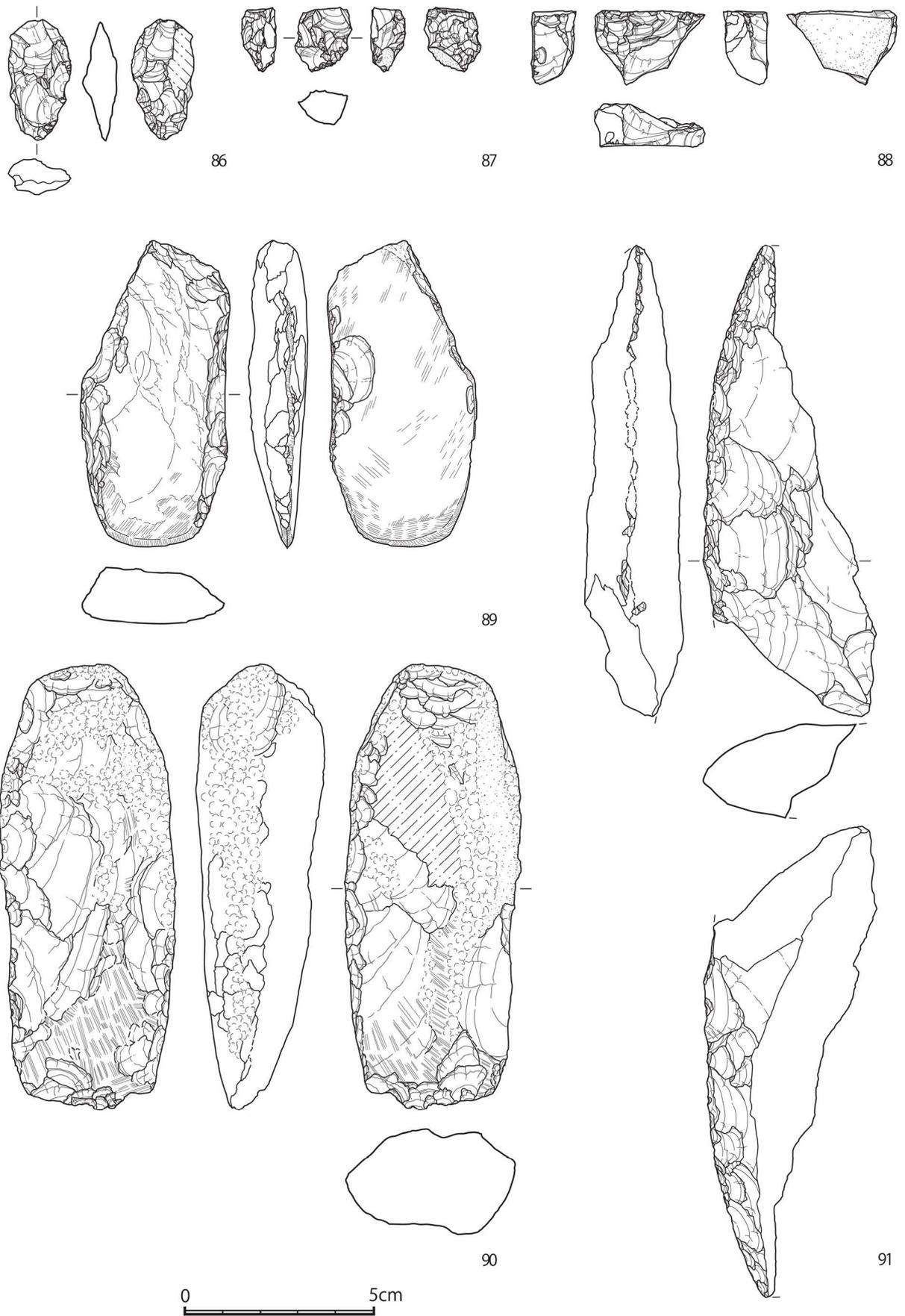
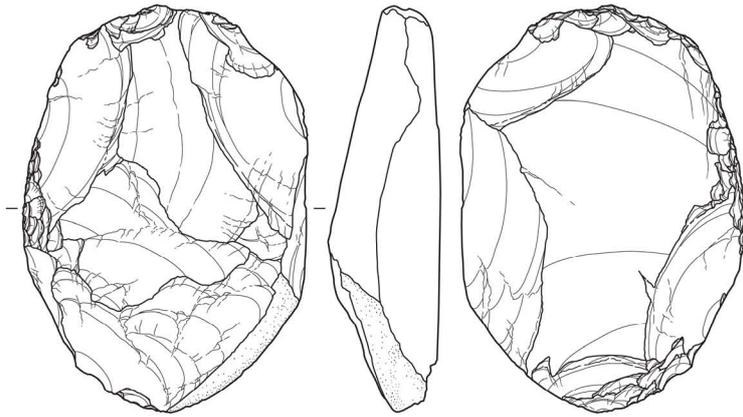
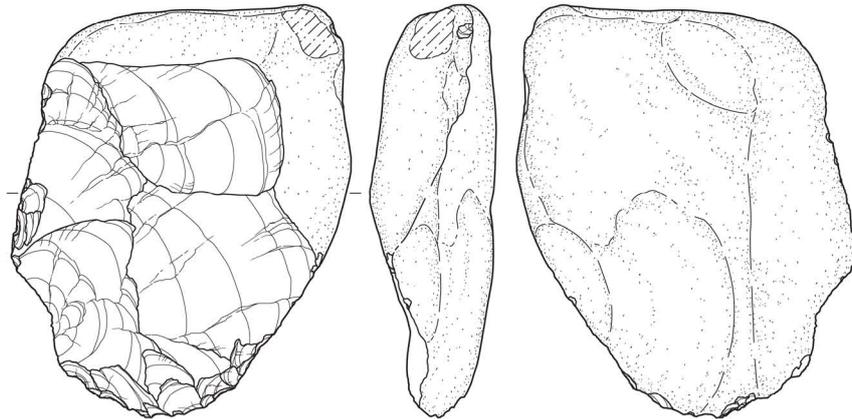
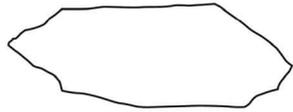


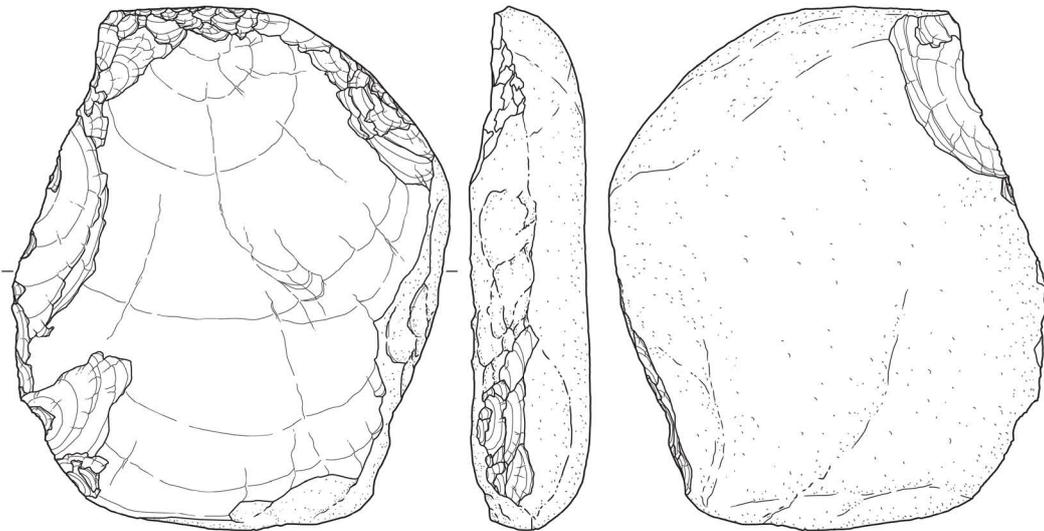
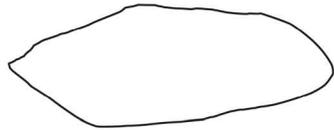
図 56 縄文時代早期石器 2 (S=2/3)



92



93



94



図 57 縄文時代早期石器 3 (S=1/2)

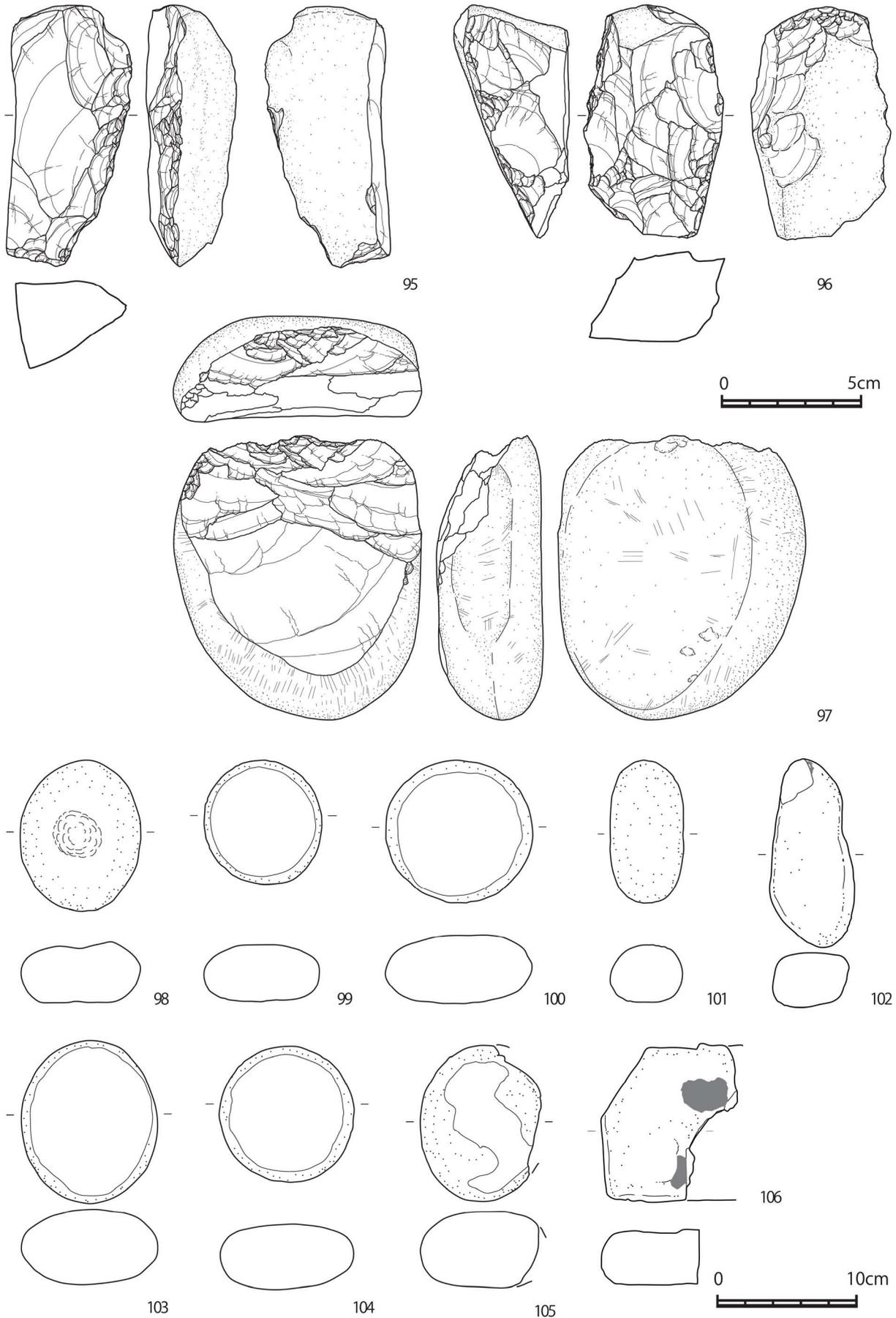


図 58 縄文時代早期石器 4 (95 ~ 97 は S=1/2、98 ~ 106 は S=1/4)

第3節 縄文時代晩期の遺構と遺物

I～Ⅲ a層で縄文時代晩期の遺物が、Ⅲ a層中で集石遺構が検出された。Ⅲ b層上面で地形測量を行ったが、等高線の間隔は現在のものとはほぼ同じであり、当時から地形の変化は少なかったと考えられる。

1 集石遺構 (図 59 SI66)

SI66はⅢ a層中から検出された。掘り込みはない。全て扁平な砂岩で構成され、被熱により赤化している。総重量は9kgである。遺構内から遺物は出土していないが、周辺から縄文時代晩期の遺物のみが出土しており、該期の遺構である可能性が高い。

2 土器

土器の出土状況は破片が散乱した状態であり、原位置を保ったものはないため、層ごとに取り上げた。土器の種別は粗製深鉢の孔列文土器と精製浅鉢の無文土器である。

孔列文土器 (図 61 107、109～116)

109と115を除き、口縁部は外反しながら開く。113～116は口縁部中程に突帯があり、穿孔位置は突帯の下になり、外面から穿孔されている。穿孔は貫通・未貫通のものがあるが、貫通したものでも内面に焼成後剥離しており、当初は未貫通のものであったと考えられる。108は底部である。胎土や色調の特徴また大きさから、107と同一個体の可能性がある。同一個体と仮定すれば、口縁が外反しつつ開く盤状の大型浅鉢のような器形であろうか。

無文土器 (図 62 117～121)

117～121精製浅鉢の口縁部である。内外面ともにミガキが施されている。

底部 (図 62 122～123)

122～123は底部である。出土層位は不明であるため、時期の特定は難しいが、Ⅲ b層上面までの調査において出土したものである。123の外面には条痕が施され、底部には振り編みの圧痕がついている。122と123は胎土の特徴が縄文時代晩期の土器と似ているため、これらの土器とともに掲載した。

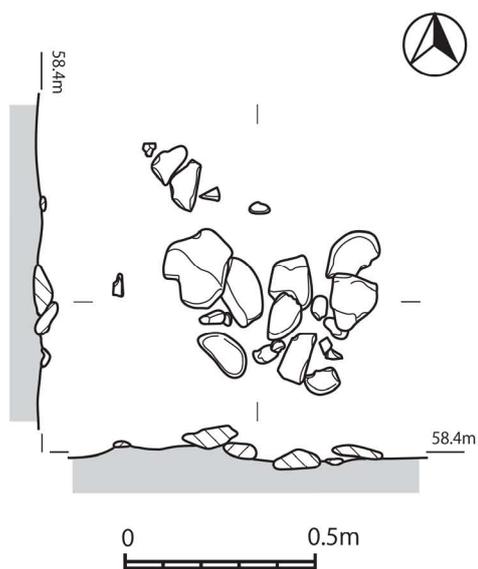


図 59 SI66 (S=1/20)

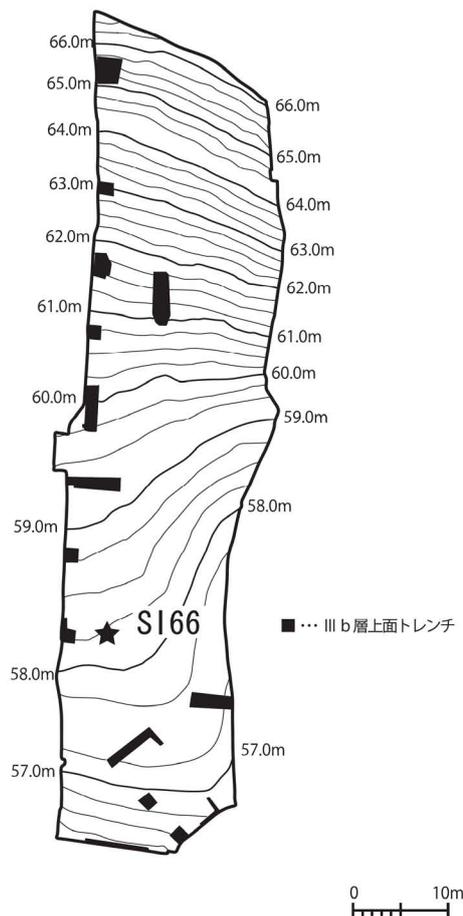


図 60 Ⅲ b層上面遺構分布 (S=1/800)

表 10 縄文時代晩期土器一覧

番号	出土層位	種別	器種・部位	手法・調整・文様ほか		色調		胎土	備考
				外面	内面	外面	内面		
107	II	孔列文	粗製浅鉢 口縁	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色 10YR7/3	黄灰色 25Y6/1	5mm以下のにぶい赤褐色・にぶい黄色・灰色粒を多く含む	復元口径 32.6cm 108と同一個体か 竹管状工具による穿孔あり 穿孔部内面の観察から焼成後剥離し、貫通。
108	II	孔列文	粗製浅鉢 底部	無	丁寧なナデ	にぶい黄橙色 10YR6/3	にぶい黄橙色 10YR7/4	5mm以下の赤褐色粒 3mm以下の乳白色粒 2mm以下の黒色粒 4mm以下の灰色粒を多く含む	底径 19.4cm 107と同一個体か 底部は中央が四角く割れる 皺・亀裂が渦巻き状に見えるため、粘土板の形状を示す可能性大
109	III a	孔列文	粗製深鉢 口縁	条痕	ナデ	浅黄色 25Y7/3	灰黄色 25Y6/2	2mm以下の灰色粒をやや含む	
110	II	孔列文	粗製深鉢 口縁	条痕	ナデ	浅黄色 25YR7/3	にぶい黄色 25Y6/3	3mm以下の赤褐色粒を密に含む	
111	不明	孔列文	粗製深鉢 口縁	条痕	条痕	にぶい黄橙色 10YR6/4	橙色 75YR6/6	4mm以下の赤褐色粒を密に含む	外面に煤付着
112	I	孔列文	粗製深鉢 口縁	条痕	条痕	にぶい黄橙色 10YR6/4	にぶい黄褐色 10YR5/3	5mm以下の赤褐色粒	
113	III a	孔列文	粗製深鉢 口縁	条痕	条痕	淡黄色 25YR8/3	暗灰黄色 25Y5/2	3mm以下の赤褐色粒を含む	
114	III a	孔列文	粗製深鉢 口縁	条痕	ナデ	浅黄色 25Y7/3	にぶい黄褐色 10YR7/3	6mm以下のにぶい赤褐色粒、3mm以下の乳白色粒 2mm以下のにぶい橙色粒を含む	
115	I	孔列文	粗製深鉢 口縁	ナデ	ナデ	浅黄色 25YR7/3	淡黄色 25Y8/3	3mm以下のにぶい赤褐色粒・灰色粒を含む	
116	I	孔列文	粗製深鉢 口縁	条痕	条痕	橙色 75YR7/6	にぶい黄褐色 10YR7/2	3mm以下の赤褐色粒を密に含む	
117	II	無文	精製浅鉢 口縁	ミガキ	ミガキ	にぶい黄褐色 10YR7/2	にぶい黄褐色 10YR7/2	1mm以下の赤褐色・灰色粒を含む	
118	不明	無文	精製浅鉢 口縁	ナデ、 工具ナデ	ナデ、 工具ナデ	にぶい黄褐色 10YR6/4	にぶい黄褐色 10YR7/3	1mm以下の灰色粒を多く含む	
119	I	無文	精製浅鉢 口縁	ミガキ	ミガキ	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい黄褐色 10YR7/3	1mm以下の赤褐色・灰色粒を含む	
120	不明	無文	精製浅鉢 口縁	工具ナデ	工具ナデ	にぶい黄褐色 75YR5/3	灰黄褐色 10YR4/2	1mm以下の赤褐色・にぶい黄褐色・灰色粒を含む	
121	不明	無文	精製浅鉢 口縁	ミガキ	ミガキ	にぶい黄褐色 10YR6/3	褐灰色 10YR4/1	1mm以下の灰色・灰白色粒を含む	
122	不明	無文	粗製深鉢 底部	ナデ	ナデ	浅黄褐色 10YR8/3	淡黄色 25Y8/3	2mm以下の灰黄色粒・灰色粒 5mmの灰色粒を含む	
123	不明	無文	粗製深鉢 底部	条痕	条痕・ナデ	にぶい橙色 75YR6/4	灰黄褐色 10YR6/2	2mm以下の赤褐色・黒褐色粒 7mmの明赤褐色粒を含む	復元底径 86cm 底部に振り編(密)圧痕?

表 11 縄文時代晩期石器一覧

番号	出土位置		石材	最大値 (cm)			重量 (g)	器種	観察所見
	区・遺構	層		長	幅	厚			
124	確認調査 4T	I	砂岩	8.9	7.2	1.8	129.7	石鍬	刃部欠損あり
125	確認調査 3T	I	ホルンフェルス	6.1	6.5	1.7	64.4	石鍬	柄部欠損あり
126	確認調査 4T	III a	ホルンフェルス	16.8	14.6	0.7	597.0	石鍬	
127	-	-	砂岩	4.4	6.3	1.2	49.5	石錘	
128	確認調査 4T	III a	砂岩	5.7	7	1.4	79.2	石錘	
129	確認調査 4T	II	砂岩	5.4	6.1	1.6	76.7	石錘	
130	-	-	砂岩	4.6	5.7	1.3	43.2	石錘	
131	-	II	砂岩	5.5	6.4	1.1	59.2	石錘	
132	確認調査 4T	III a	砂岩	5.1	5.3	0.9	26.9	石錘	
133	確認調査 4T	-	砂岩	23.4	7.2	5.7	1178.4	砥石?	トーン部分は砥部

3 石器

石鍬 (図 63 124 ~ 126)

124 ~ 126 は有肩打製石斧である。用途が土掘り具と考えられ、石鍬として報告する。石材は 124 は砂岩、125・126 はホルンフェルスである。124 は刃部が欠損し、125 は柄部が欠損している。126 は大型の石鍬で、刃部の形状は「 \surd 」形である。刃

部の剥離は周縁の剥離より古いため、刃部は元来、このような形状であったことも考えられるが、欠損による再加工の可能性も否定できない。全体が風化しており、摩滅などの使用痕は確認できない。126 は 124・125 に比して倍以上の大きさである。大きさの差異が機能差か、あるいは時期差によるものかは現段階では判断が難しい。

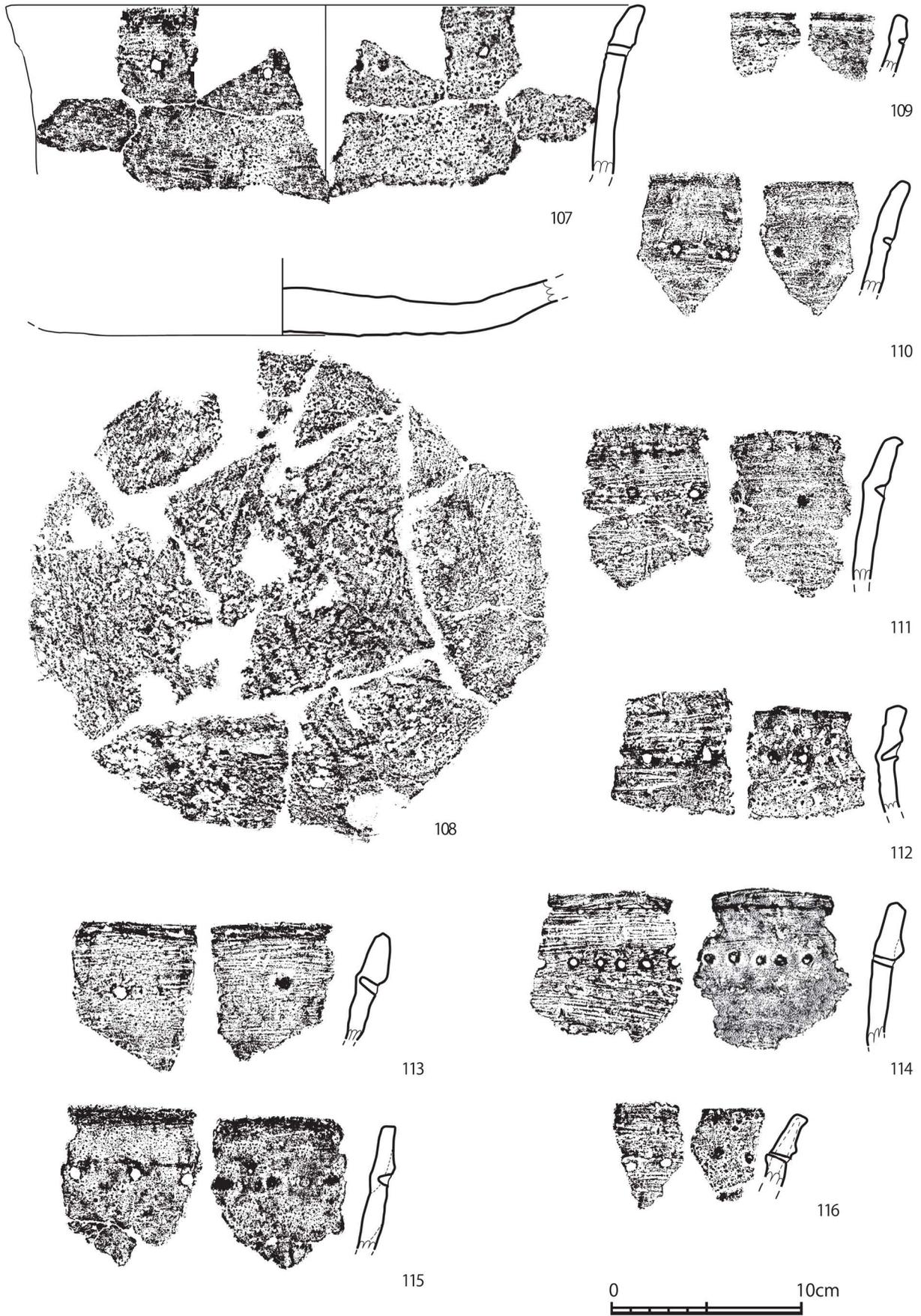


図 61 縄文時代晩期土器 1 (S=1/3)

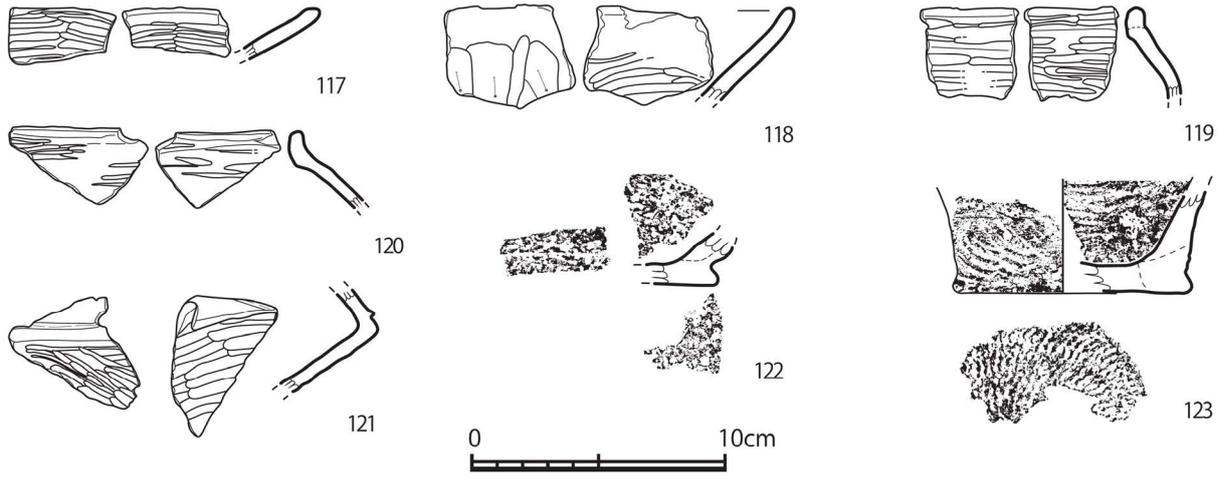


図 62 縄文時代晩期土器 2 (S=1/3)

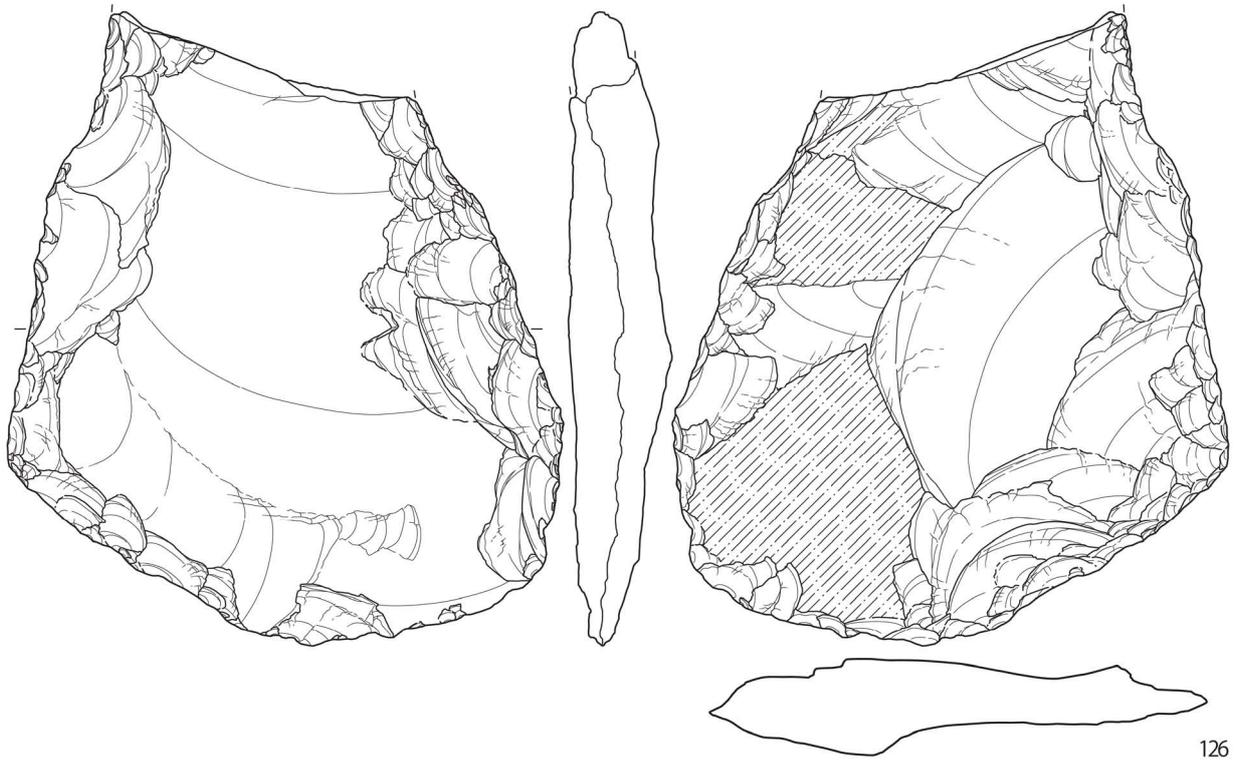
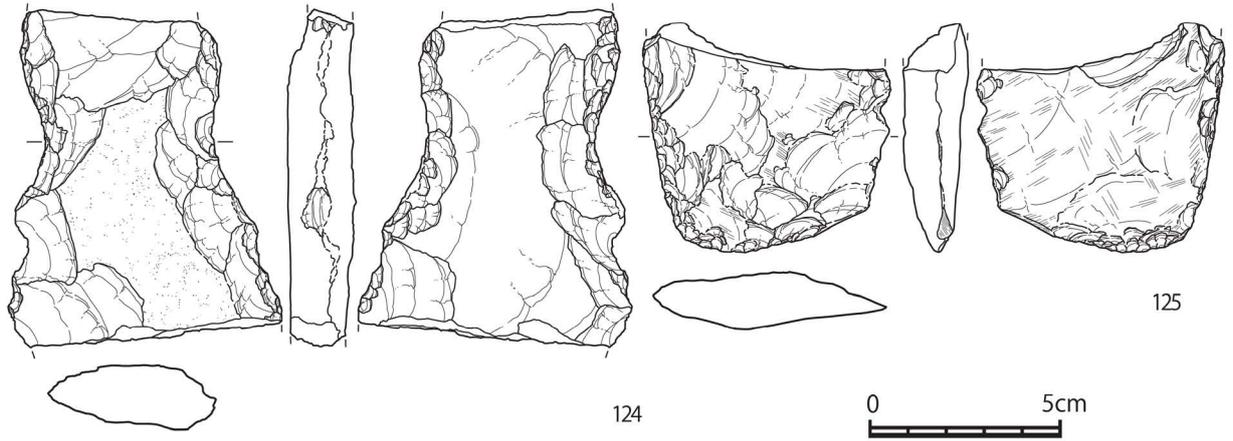


図 63 縄文時代晩期石器 1 (S=1/2)

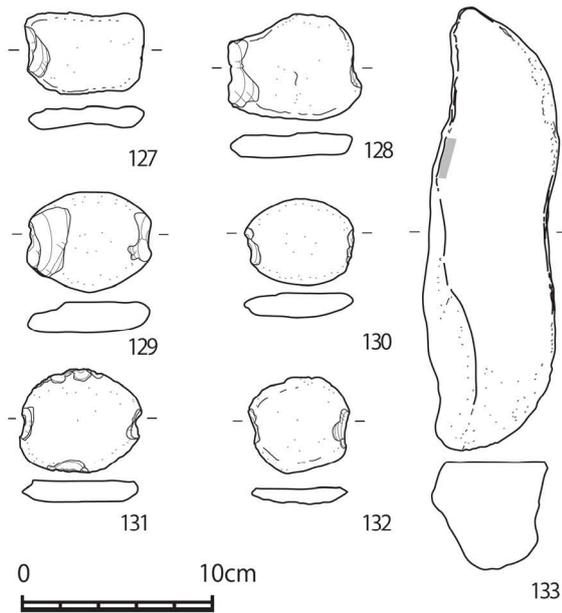


図 64 縄文時代晩期石器 2 (S=1/4)

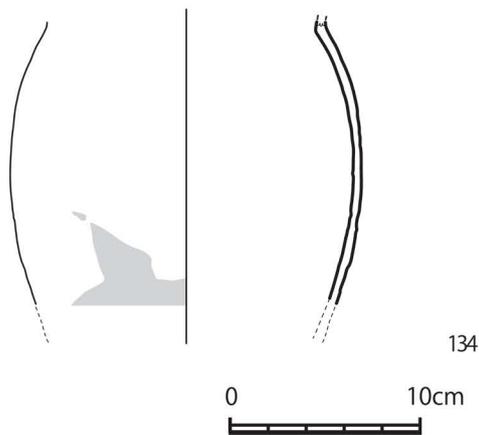


図 65 古墳時代中期土師器 (S=1/4)

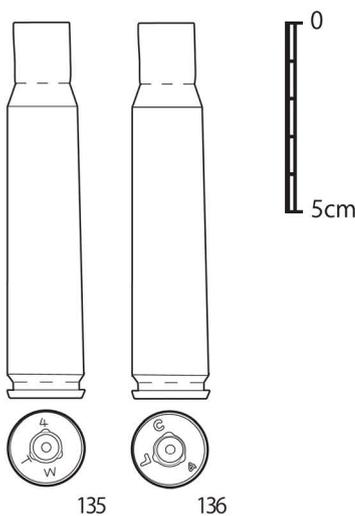


図 66 12.7mm 重機関銃弾薬莖 (S=1/2)

石錘 (図 64 127 ~ 132)

石錘は全て砂岩製である。大きさは5~6cm大、厚さは平均1.3cmと小型である。127~132は長軸の両端を打ち欠き、131は長短両軸を打ち欠く。132は短軸を打ち欠く。

砥石か (図 64 133)

133は図のトーン部分に研磨の痕跡が見られる。範囲が狭いため、確実には言い難いが、自然にできる面ではないため砥石の可能性が高い。

第4節 古墳時代以降の遺物

134は古墳時代中期頃の土師器甕である。確認調査時の4T I層から出土した。頸部~胴部下半までが残存している。図中のトーン部分は煤が付着範囲であり、胴部下半にのみ付着していることがわかる。今次調査における該期の遺物はこの土師器甕1点であり、ごく近接して該期の集落がないことから若干離れた集落から持ち込まれた可能性も考え得る。

135・136は表採であるが、12.7mm重機関銃弾の薬莖である。刻印や口径から米軍使用のものと考えられる。底部の刻印は「4 T W」、「4 L C」と読める。底部には製造年と製造場所が打刻されるが、本資料の刻印の内容は不明である。現在、本遺跡の東方には航空自衛隊新田原基地が所在するが、第二次世界大戦中は陸軍航空隊の飛行場であった。大戦末期には、米軍がこの基地を標的とし、周辺一帯では航空機による爆撃や銃撃を受けた。本遺跡に近い西都市宮ノ東遺跡や新富町永牟田第2遺跡においても、同口径の薬莖及び弾丸が出土しており、往時の戦闘の激しさを物語る資料であるといえよう。



写真 10 12.7mm 重機関銃弾薬莖

第 V 章 自然科学分析の結果

今次調査では、縄文時代早期の遺構から炭化材が検出された。集石遺構は重複関係が少なく、先後関係の把握が困難である。炉穴に関しても、埋土と地山の色調・土質が似ていたため、VI層で検出した。また、遺構出土の遺物も乏しく、時期判定が困難で

ある。従って、遺構から検出された炭化材を自然科学的な年代測定にかけることによって、時期の判定の材料とすることにした。併せて、これらの炭化材については樹種同定も行い、当時の植生や燃料材の復元も試みた。

宮崎県、尾小原遺跡（三次）における自然科学分析

株式会社 古環境研究所

第 1 節 放射性炭素年代測定

1 試料と方法

試料	地点・遺構	種類	前処理・調整	測定法
No.1	SI44	炭化材（コナラ属コナラ節）	酸-7カハ酸洗浄, 石墨調整	AMS
No.2	SI16	炭化材（コナラ属コナラ節）	酸-7カハ酸洗浄, 石墨調整	AMS
No.3	SI13	炭化材（コナラ属コナラ節?）	酸-7カハ酸洗浄, 石墨調整	AMS
No.4	SP4b	炭化材（樹皮）	酸-7カハ酸洗浄, 石墨調整	AMS
No.5	SP5	炭化材（コナラ属コナラ節）	酸-7カハ酸洗浄, 石墨調整	AMS

AMS：加速器質量分析法（Accelerator Mass Spectrometry）

2 測定結果

試料名	測定 No.	¹⁴ C 年代 (Beta-)	$\delta^{13}C$ (‰)	補正 ¹⁴ C 年代 (年 BP)	暦年代 (西暦) (1 σ :68%確率 2 σ :95%確率)
No.1	209395	8250 ± 40	-26.0	8230 ± 40	交点：cal BC 7290 1 σ : cal BC 7320 ~ 7170 2 σ : cal BC 7430 ~ 7420, 7350 ~ 7090
No.2	209396	8250 ± 40	-25.4	8240 ± 40	交点：cal BC 7300 1 σ : cal BC 7330 ~ 7180 2 σ : cal BC 7450 ~ 7400, 7360 ~ 7100
No.3	209397	8210 ± 40	-25.4	8200 ± 40	交点：cal BC 7180 1 σ : cal BC 7300 ~ 7100 2 σ : cal BC 7330 ~ 7080
No.4	209398	8320 ± 40	-26.1	8300 ± 40	交点：cal BC 7340 1 σ : cal BC 7460 ~ 7320 2 σ : cal BC 7490 ~ 7280, 7230 ~ 7190
No.5	209399	8140 ± 40	-26.8	8110 ± 40	交点：cal BC 7070 1 σ : cal BC 7090 ~ 7060 2 σ : cal BC 7170 ~ 7050

(1) ^{14}C 年代測定値

試料の $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比から、単純に現在 (AD1950年) から何年前かを計算した値。 ^{14}C の半減期は、国際的慣例により Libby の 5,568年を用いた。

(2) デルタ $\delta^{13}\text{C}$ 測定値

試料の測定 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比を補正するための炭素安定同位体比 ($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$)。この値は標準物質 (PDB) の同位体比からの千分偏差 (‰) で表す。

(3) 補正 ^{14}C 年代値

$\delta^{13}\text{C}$ 測定値から試料の炭素の同位体分別を知り、 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ の測定値に補正値を加えた上で算出した年代。試料の $\delta^{13}\text{C}$ 値を $-25(‰)$ に標準化することによって得られる年代である。

(4) 暦年代

過去の宇宙線強度の変動による大気中 ^{14}C 濃度の変動を較正することにより算出した年代 (西暦)。cal は calibration した年代値であることを示す。較正には、年代既知の樹木年輪の ^{14}C の詳細な測定値、およびサンゴの U-Th年代と ^{14}C 年代の比較により作成された較正曲線を使用した。

暦年代の交点とは、補正 ^{14}C 年代値と較正曲線との交点の暦年代値を意味する。1シグマ σ (68%確率) と 2 σ (95%確率) は、補正 ^{14}C 年代値の偏差の幅を較正曲線に投影した暦年代の幅を示す。したがって、複数の交点が表記される場合や、複数の 1 σ ・2 σ 値が表記される場合もある。

3 所見

加速器質量分析法 (AMS法) による放射性炭素年代測定の結果、No. 1 (SI44) の炭化材では 8230 \pm 40年 BP (1 σ の暦年代で BC7320 ~ 7170年)、No. 2 (SI16) の炭化材では 8240 \pm 40年 BP (同 BC7330 ~ 7180年)、No. 3 (SI13) の炭化材では 8200 \pm 40年 BP (同 BC7300 ~ 7100年)、No. 4 (SP 4) の炭化材では 8300 \pm 40年 BP (同 BC7460 ~ 7320年)、No. 5 (SP 5) の炭化材では 8110 \pm 40年 BP (同 BC7090 ~ 7060年)の年代値が得られた。

文献

Stuiver et al. (1998), INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration, Radiocarbon, 40, p.1041-1083.

中村俊夫 (1999) 放射性炭素法。考古学のための年代測定学入門。古今書院。p.1-36.

第2節 樹種同定

1 はじめに

木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、解剖学的形質の特徴から樹種の同定が可能である。木材は花粉などの微化石と比較して移動性が小さいことから、比較的近隣の森林植生の推定が可能であり、遺跡から出土したものについては木材の利用状況や流通を探る手がかりとなる。

2 試料

試料は、SI44、SI16、SI13、SP 4b、SP 5から採取された炭化材5点である。これらは、放射性炭素年代測定を行ったものと同一試料である。

3 方法

試料を割削して新鮮な横断面 (木口と同義)、放射断面 (柾目)、接線断面 (板目) の基本三断面の切片を作製し、落射顕微鏡によって 50 ~ 1000倍で観察した。同定は、解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。

4 結果

表 12 に結果を示し、主要な分類群の顕微鏡写真を示す。以下に同定根拠となった特徴を記す。

【コナラ属コナラ節 Quercus sect. Prinus ブナ科 写真 11-1・2・3】

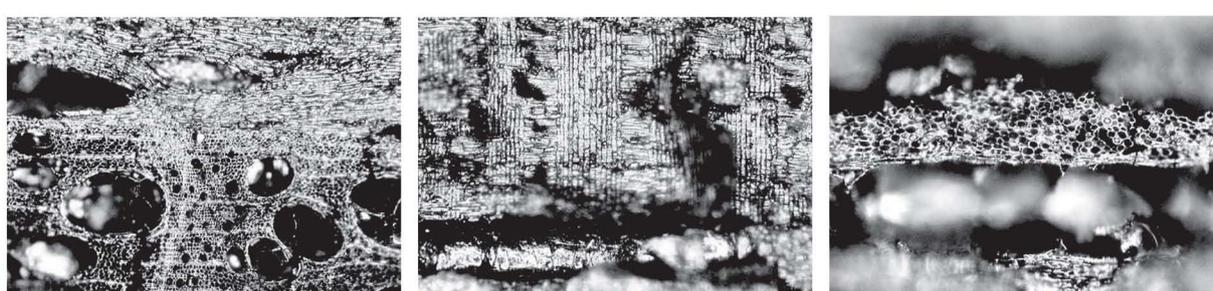
横断面：年輪のはじめに大型の道管が 1 ~ 数列配列する環孔材である。晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列または散在する。早材から晩材にかけて道管の径は急激に減少する。放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなる。接線断面：放射組織は同性放射組織型で、単列のものと大型の広放射組織からなる複合放射組織である。以上の形質よりコナラ属コナラ節に同定される。なお、部分的にコナラ属コナラ節の特徴を示すが、小片で広範囲の観察が困難な試料についてはコナラ属コナラ節?とした。コナラ属コナラ節には、カシワ、コナラ、ナラガシワ、ミズナラがあり、北海道、本州、四国、九州に分布する。落葉高木で、高さ 15 m、径 60cm ぐらいに達する。材は強韌で弾力に富み、建築材などに用いられる。



横断面 : 0.4mm 放射断面 : 0.2mm 接線断面 : 0.4mm
 1. OK-1 SI112② コナラ属コナラ節



横断面 : 0.4mm 放射断面 : 0.4mm 接線断面 : 0.4mm
 2. OK-2 SI214b コナラ属コナラ節



横断面 : 0.4mm 放射断面 : 0.4mm 接線断面 : 0.2mm
 3. OK-5 SP5 コナラ属コナラ節

写真 11 尾小原遺跡第三次調査の炭化材

【樹皮 bark】

師部柔細胞、師部放射柔細胞が見られる。以上の形質より、樹皮に同定される。

5 所見

分析の結果、コナラ属コナラ節3点、コナラ属コナラ節? 1点、樹皮1点が同定された。コナラ属コナラ節は、日当たりの良い山野に生育する落葉高木で、冷温帯落葉広葉樹林の主要高木であるミズナラや二次林性のコナラなどが含まれる。当時の遺跡周辺で採取可能な樹種であったと考えられる。

文献 佐伯浩・原田浩 (1985) 広葉樹材の細胞、木材の構造、文永堂出版, p.49-100.

表 12 尾小原遺跡第三次調査における樹種同定結果

試料	結果 (学名/和名)
SI44	Quercus sect. Prinus コナラ属コナラ節
SI16	Quercus sect. Prinus コナラ属コナラ節
SI-13	Quercus sect. Prinus? コナラ属コナラ節?
SP4 b	bark 樹皮
SP5	Quercus sect. Prinus コナラ属コナラ節

第Ⅵ章 総括

第1節 尾小原遺跡発掘調査成果の概要

1 第一次調査成果の概要

【旧石器時代】

- ① AT 下位 (旧石器 I 期 宮崎10段階編年第1段階相当)
礫群複数基 (掘り込みなし。赤化せず。礫分布は散漫。) ホルンフェルス製石器出土。
- ② AT 上位 (旧石器 II~IV期)
II期—礫群1基、剥片、台石?
III期—礫群7基 (礫散漫・赤化せず、礫密集・赤化)
IV期—礫群 (浅い掘り込み・礫密集・赤化)
遺物—ナイフ形石器・台形石器・角錐状石器・
周縁加工石器・搔器・二次加工剥片・敲石・
剥片・碎片・石核・細石刃

【縄文時代早期】

- ① 散礫 (約半数が赤化)、土坑5基 (陥し穴状遺構)
- ② 土器1点 (貝殻条痕文土器)、打製石鏃、石錐、黒曜石原石

【縄文時代後期】

土坑 (年代測定結果= BC1,630、BC3,990)

【近世以降】

焼き台1点 (付近に窯が存在したか)

2 第二次調査成果の概要

【旧石器時代 (AT 上位)】

- ① 第I文化層—石器ブロック1箇所、礫群7基、
角錐状石器、ナイフ形石器、スクレイパー、剥片、
碎片、台石、敲石
- ② 第II文化層 (Kr-Kb) —石器ブロック1箇所、角
錐状石器、ナイフ形石器、スクレイパー、剥片、
碎片、石錐、細石刃核、石核、使用痕剥片

【縄文時代早期】

- ① 陥し穴状遺構4基、土坑1基、
- ② 石鏃 (姫島産黒曜石)、剥片、敲石、礫器

【縄文時代晩期】

孔列文土器、黒川式土器

【弥生時代】

竪穴住居跡3軒、弥生時代後期壺、磨製石鏃

【古墳時代】

須恵器甕胴部

3 第三次調査成果の概要

【旧石器時代】

- ① 遺構なし
- ② ホルンフェルス製剥片2点 (VI層)、
黒曜石製角錐状石器1点 (出土層位不明)

【縄文時代早期】

- ① 散礫
「層」(遺物包含層)として調査。
- ② 集石遺構65基
ある程度のまとまりをもって分布。大型 (配石
有り) と小型のセット関係。集石遺構の周囲に
大き目の礫が点在。遺構がない空間の存在。
- ③ 炉穴7基
検出層位は集石遺構より下位 (V b層)。
SI31 (先) と SP3 (後) の先後関係。炭化材の
年代測定結果 (SP4=B.C.7,340、SP5=B.C.7,070)。
- ④ 土坑3基
不定形。2基重複。詳細不明。
- ⑤ 碎片集中箇所 (2箇所)
SR1 = 黒曜石碎片、SR2 = チャート碎片。
他の遺構と重複しない。石器未成品、石核出土
から石器製作跡か。
- ⑥ 土器 (押型文土器・貝殻条痕文土器他)
多様な押型文土器の出土 (初期の押型文~田村
ヤトコロ式まで)。南九州貝殻文円筒土器、塞ノ
神式、沈線文 (早期末)。土製品 (詳細不明)
- ⑦ 石器 (石鏃・石核・剥片・磨製石斧他)
石鏃未成品 (遺跡内で製作か)。刃部磨製石斧 (早
期の石斧)。赤色顔料? 付着石器

【縄文時代晩期】

- ① 集石遺構 (1基)
- ② 土器 (粗製深鉢孔列文土器、精製浅鉢無文土器)
- ③ 石器 (石鏃・石錘・砥石)
石鏃は大小2種類

【古墳時代以降】

- ① 古墳時代中期土師器甕1点
- ② 12.7mm 重機関銃弾薬莢 (WW. II、米軍使用)

第2節 尾小原遺跡発掘調査の総括

尾小原遺跡第一次～第三次調査の成果をふまえ、遺跡全体の評価を行う。

【立地、旧地形】

本遺跡の立地条件は第Ⅱ章第1節で記述したが、第一次・第二次と第三次では立地条件が異なるため注意を要する。すなわち、第一次・第二次調査区は尾根上の広い平坦地、第三次調査区はこの尾根から派生する小尾根上の狭い平坦地である。

次に、基本層序から旧地形と地形の変遷を考える。KAh層は、第一次調査区の大部分及び第二次調査区では開墾の影響で削平が広範囲に及ぶが、第三次調査区では安定的に堆積する。Kr-Kbを含む層は遺跡全域で安定的な堆積を示すが、AT層は第一次・第三次調査区で部分的に堆積していた。各層の堆積状況から、AT降灰以前は火山灰が堆積し難い地形であり、現在の地形の基礎はKr-Kbを含む層が堆積する頃であったと推定される。第三次調査区ではKr-Kbを含む層以上の層は現在とほぼ同じ傾斜で堆積しており、旧石器時代から現在まではほぼ同じ地形であったと考えられる。また、現在、第二次と第三次調査区の間は平坦で、Kr-Iwが露出する。この場所を挟んでKAh層が堆積するため、元来両調査区の間には小高い地形があったと考えられる。

なお、第三次調査のある小尾根の延長線上には高千穂峰がある。空気が澄んだ冬季では本遺跡からも高千穂峰が見られる(写真12)。さらに、尾鈴山、市房山、鱈塚山もみられ、宮崎平野周辺の主要な山が一望でき、本遺跡は眺望豊かな場所に立地する。

【旧石器時代】

AT下位は第一次調査で宮崎10段階編年の第1段階相当の遺構・遺物が確認された。

AT上位は第一次・第二次調査で多くの遺構・遺物が確認された。第一次調査では3期に分けられ、各時期で礫群の様相が異なり、遺構の変遷を考える上で重要な資料となろう。第二次調査では石器ブロックが2箇所検出され、角錐状石器やナイフ形石器等が出土した。石器ブロックの周囲には赤化礫や角礫で構成された礫群が分布し、中間地点に台石と敲石が出土するなど石器製作過程を示す分布状況であっ

た。石器石材は本遺跡周辺に分布しない流紋岩や黒曜石が多く、遠隔地との交流がうかがえる。第三次調査ではKr-Kbを含む層から剥片2点と出土位置不明の角錐状石器1点が得られたのみであり、当時の人間活動の場は台地縁辺から若干内陸に入った第一次・第二次調査区周辺であったと考えられる。

【縄文時代早期】

遺構の在り方について、第一次・第二次調査と第三次調査では対照的である。第一次・第二次調査では陥し穴状遺構と土坑が検出され、第三次調査では集石遺構・炉穴・土坑・碎片集中箇所が検出された。陥し穴状遺構は狩猟用の施設、集石遺構・炉穴は調理施設であるという解釈が一般的であり、碎片集中箇所が石器製作跡と考えれば、当時、人間活動の拠点は第三次調査区のある小尾根であり、第一次・第二次調査区周辺は狩猟場であったと考えられよう。

土器については第一次調査で貝殻条痕文土器、第三次調査では押型文土器を中心に各種の土器が出土した。押型文土器は口縁部が直立気味に立ち上がり、外面に山形押型文を横位に施すもの、早水台式土器、下菅生B式土器など導入期～田村ヤトコロ式期までのものが漸続的にみられる。貝殻条痕文土器は桑ノ丸式・下剥峯式土器など早期中葉のものが大半である。早期末の土器は塞ノ神式と沈線文土器が極僅かに出土したのみである。遺物の時期から第三次調査で検出された遺構の存続時期は早期中葉から後葉を中心とし、早期末を降らないと考えられる。

なお、押型文土器では特殊な原体のものがみられる。一つは三日月形の押型文で、器形と施文方法・部位から推せば、下菅生B式土器の一種であろうか。二つめは格子目の押型文で、通有の格子目押型文は格子部分が線状であり、形も正方形に近いが、本資料は格子部分の幅が広く、形も長方形である。

【縄文時代後晩期】

後期の遺構は第一次調査で土坑が検出されたのみである。埋土から遺物は出土せず、出土炭化物の年代測定結果から後期と判断された。

晩期の遺構は第三次調査で集石遺構1基が検出された。遺構出土の遺物はなく、周辺出土の土器は晩期のもののみであった。他に第二次・第三次調査で

粗製深鉢の孔列土器と精製浅鉢無文土器が出土した。石器は第三次調査で石錘と石鍬が出土しており、何らかの生産活動の痕跡はうかがえるが、早期に比して人間活動は低調であったと考えられる。

なお、南九州では石鍬が古墳時代まで残っており、高鍋町下耳切第3遺跡では古墳の周溝から石鍬が出土した。古墳時代遺物の可能性も考えられよう。

【弥生時代】

第二次調査では竪穴住居跡3軒が確認され、この内1軒から後期の壺1点が出土した。削平が広範囲に及んでおり、集落の広がりをも想定できよう。

【古墳時代】

古墳時代の成果は僅かで、第二次調査で須恵器甕胴部の小破片が、第三次調査で中期土師器甕1点が出土したのみである。本遺跡の所在する新田原台地には祇園原古墳群が、台地の縁辺には竹淵C遺跡・銀代ヶ迫遺跡などの集落遺跡も存在する。本遺跡出土の遺物は少量だが、周辺遺跡との関係上意義深い。

【近世】

第一次調査では窯道具の焼き台が出土した。遺跡周辺に窯跡が存在した可能性がある。

【近代】

第三次調査で12.7mm重機関銃弾薬莖2本(WW. II、米軍使用)が表採された。東九州自動車道関連発掘調査では戦争関係遺構・遺物が多数確認されている。本遺跡周辺でも空襲の記録が残り、経験者もいるが、高齢化によって今後その経験を次世代へ伝えることが困難になるであろう。将来、戦争関係遺構・遺物が有力な歴史資料となることは確実である。

第3節 集石遺構に関する検討

本節では今次調査における散礫と集石遺構について若干の考察と、調査方法の問題点について述べる。

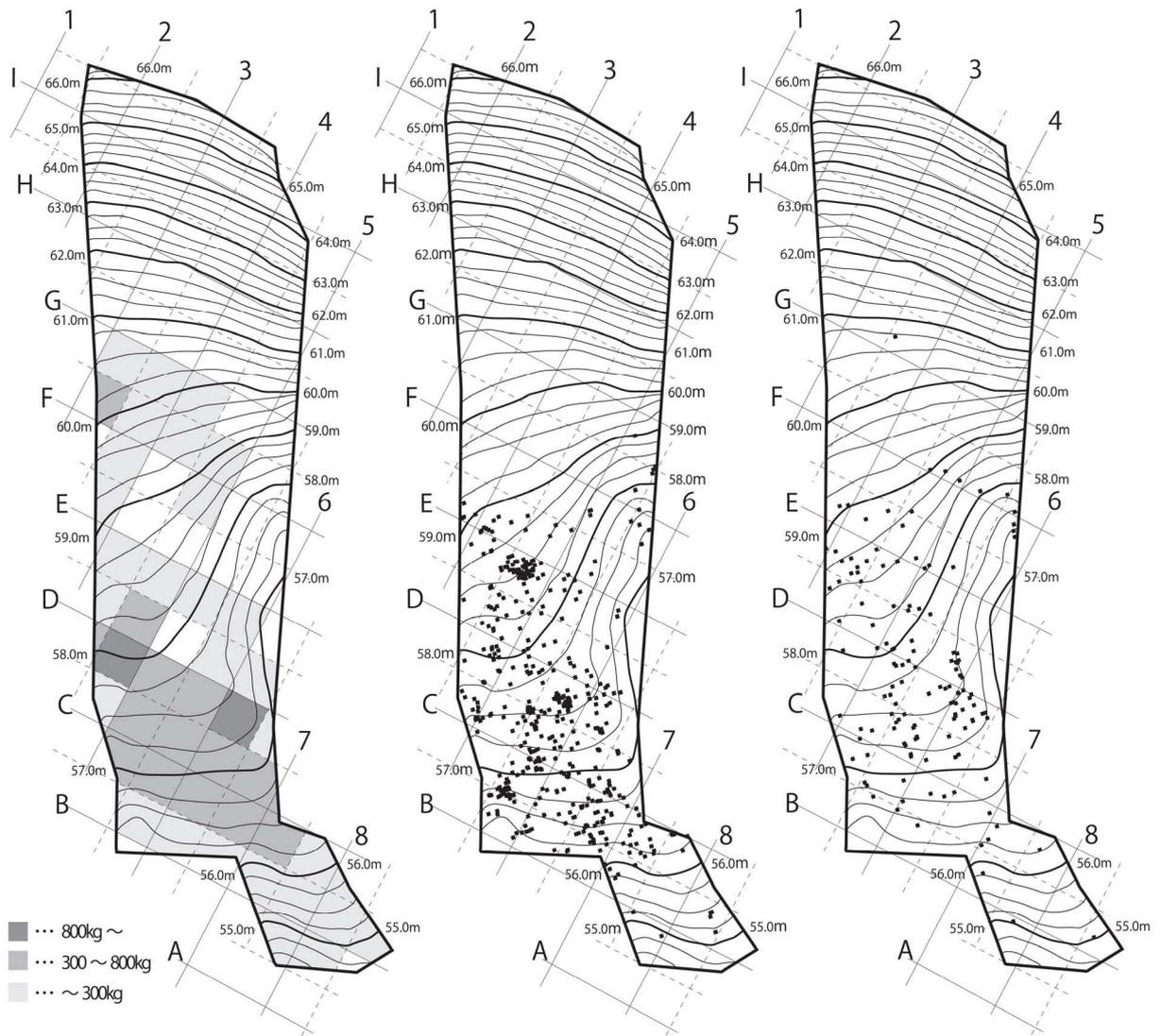
散礫は範囲と重量分布(図67)を記録した。大規模な集石遺構のある区画は散礫の重量も多く、集石遺構の規模や密度と比例する傾向がある。礫重量は地形の傾斜に沿って西方向に重量が漸減する。これらのことは散礫が集石遺構と密接な関係をもつことを想起させるが、地形傾斜に応じて流出した状況が認められるため、遺構であると判断し難い。同じく

図67に土器と石器の分布図を掲載したが、遺物分布は散礫の範囲と重複するが重量とは対応しない。散礫中の遺物は原位置を保っていない状況で出土したことも合わせて、散礫を遺物包含層と捉えたい。今次調査では散礫と集石遺構の構成礫を計量した結果、散礫が11,815kg、集石遺構が6,266kg、合計18,081kgであった。これらの礫は本遺跡の基盤層である段丘礫層の礫と同種である。また、今次調査区より高所に礫が露頭している場所が見られないため、礫は全て人為的に今次調査区内へ持ち込まれたと考えられる。遺跡周辺の開析谷には段丘礫層の露頭が見られることから、遺跡で検出された礫は遺跡近辺の露頭から入手した可能性が高い。

宮崎県では2003年時点で2,886基の集石遺構が調査されてきた(九州縄文研究会2003『九州縄文時代の集石遺構と炉穴』)。調査・研究の蓄積は大きいだが、現在の研究動向は低調であり、新たな視点からの研究が期待されている。また、行政における発掘調査では集石遺構の記録作業が調査期間を圧迫しているという指摘がある。研究の進展や調査の迅速化を考えた場合、新しい視点が必要である。

今回調査では第IV章第2節で述べたように、記録方法を改めたが、問題点もある。検出状況写真は図面に置き換わるものと考えたため、可能な限り垂直方向から撮影したが、検出写真の扱いを図面とは区別して考えれば、垂直撮影する必要はないであろう。また、礫の赤化や形質等の情報を書き込んだ実測図もあったが、カラー写真で表現可能であると考えられる。従って、カラーの検出状況写真を報告書に掲載してはどうだろうか。また、礫の分布から人間行動の痕跡が認定・推定できる遺構であれば実測図を作成する必要もあろう。個々の遺構の状況によってさまざまな記録方法をとれば、調査期間・経費の圧縮にも繋がるであろう。断面写真は半截状態で撮影する方法、遺構の半分を断割る方法が考えられる。半截状態での断面撮影は礫の堆積状況を明確に捉えがたいため、写真のみでは不十分かもしれない。

今次調査では、新しい記録方法を試みたが、改良点や問題点もある。今後、研究を深化させ、さらに改良していく必要がある。



【 散 礫 】 【 土 器 】 【 石 器 】
 図 67 散礫重量分布、土器分布、石器分布（SR1・SR2 は除く）（S=1/800）



写真 12 尾小原遺跡から望む高千穂峰

写真



C4区 集石遺構分布 1



C4区 集石遺構分布 2



Gr.5 付近以北集石遺構分布



Gr.5 付近以南集石遺構分布



SI44・SI45・SI46 検出前



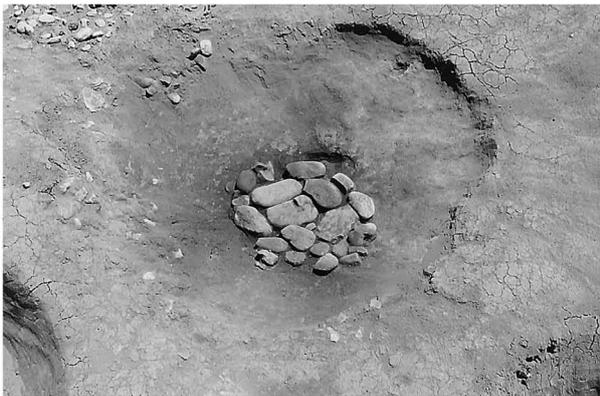
SI44・SI45・SI46 検出状況



SI 1 配石検出状況



SI 4 配石検出状況



SI10 配石検出状況



SI15 配石検出状況



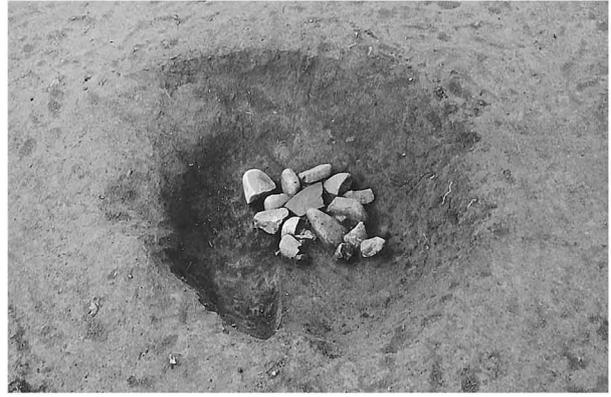
SI16 配石検出状況



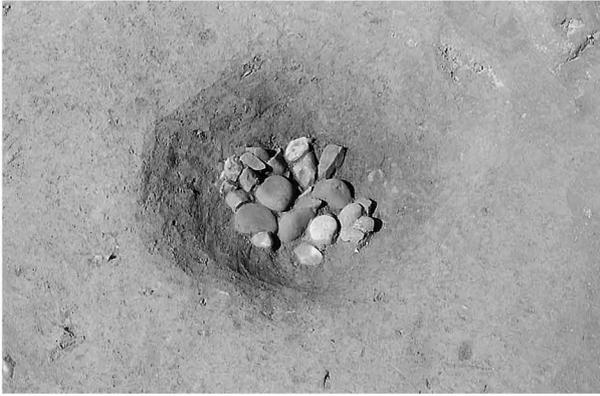
SI22 配石検出状況



SI24 配石検出状況



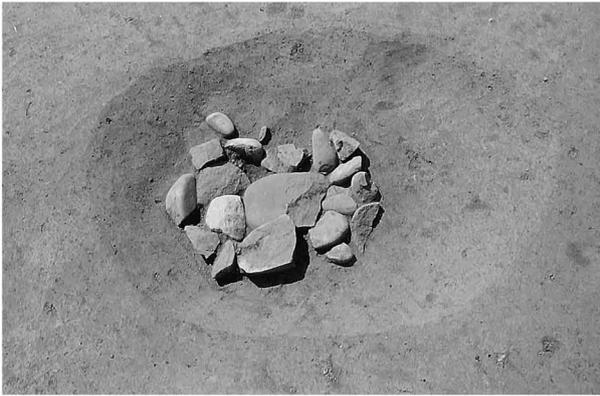
SI30 配石検出状況



SI32 配石検出状況



SI37 配石検出状況



SI39 配石検出状況



SI44 炭化材検出状況



SI43 配石検出状況



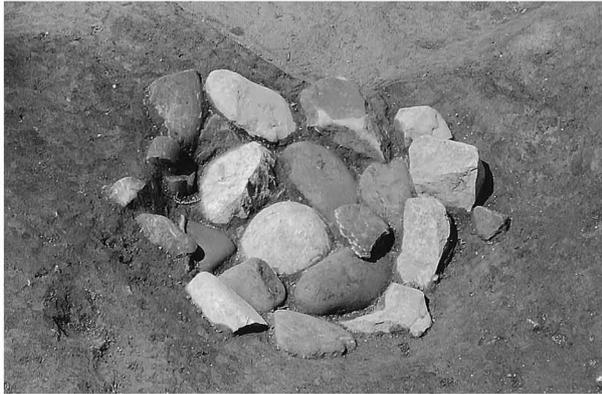
SI44 配石検出状況



SI51 配石検出状況



SI60 配石検出状況



SI31 配石検出状況



SP1・SP2 完掘状況



SP4・7 検出状況



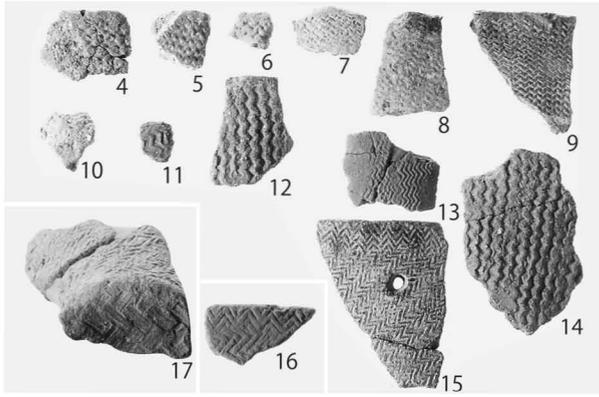
SP6 半截状況



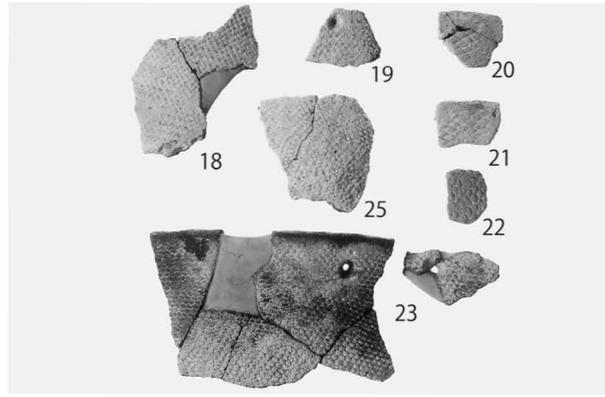
SI66 検出状況



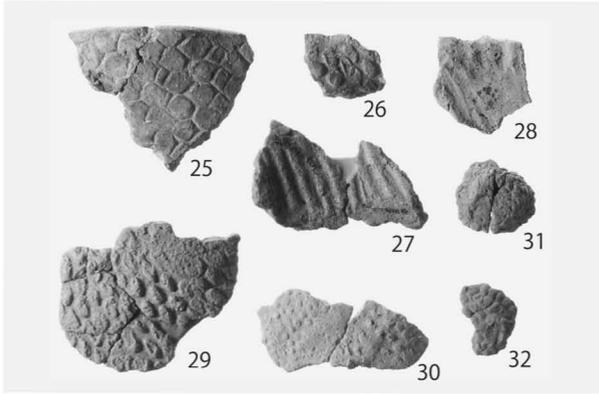
III b 層上面調査区全景（西から）



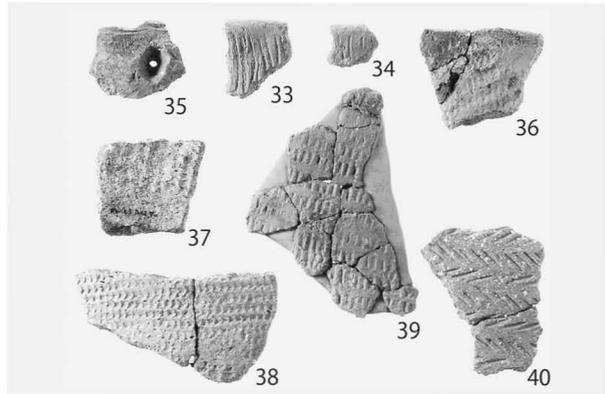
押型文土器 (山形)



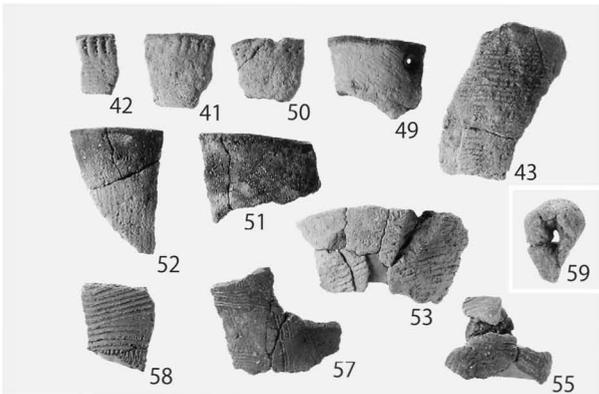
押型文土器 (細粒楕円)



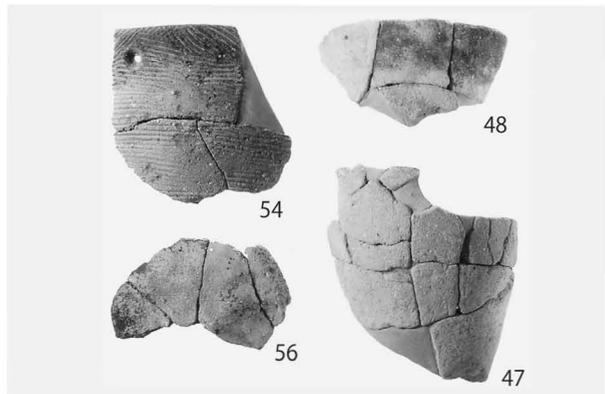
押型文土器 (粗大楕円)



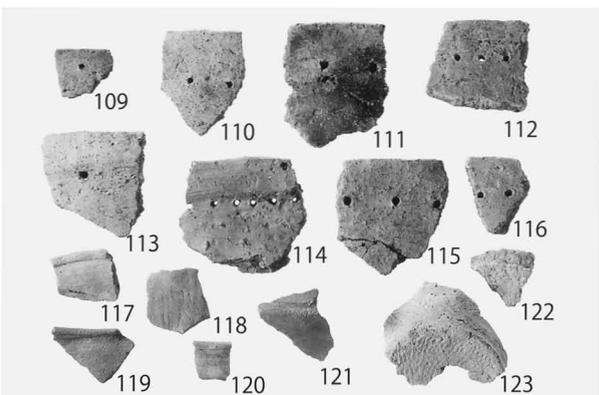
撚糸文土器・その他の押型文土器



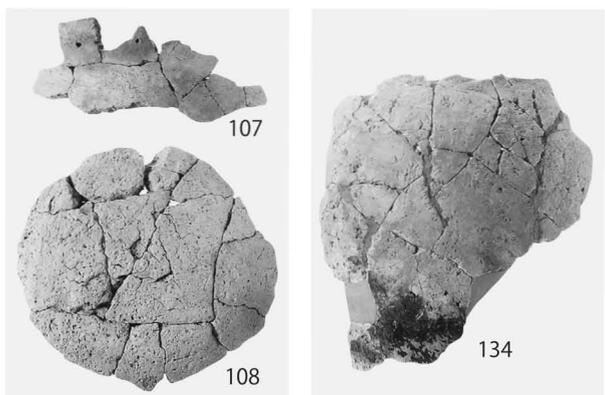
貝殻条痕文土器 1



貝殻条痕文土器 2

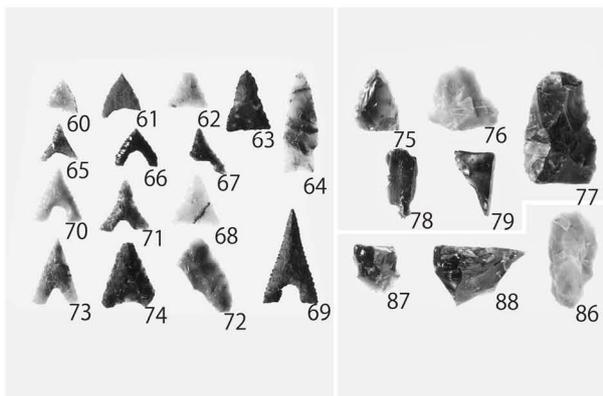


縄文時代晩期土器 1

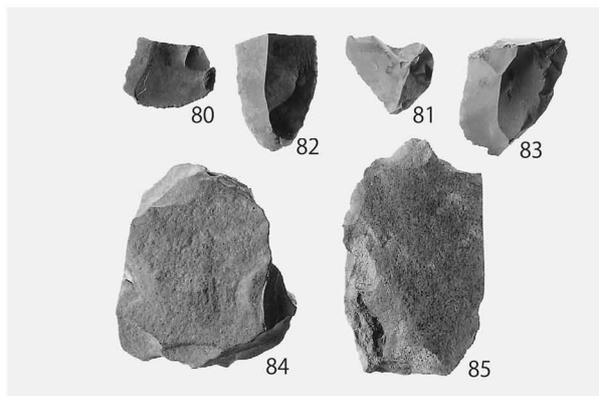


縄文時代晩期土器 2

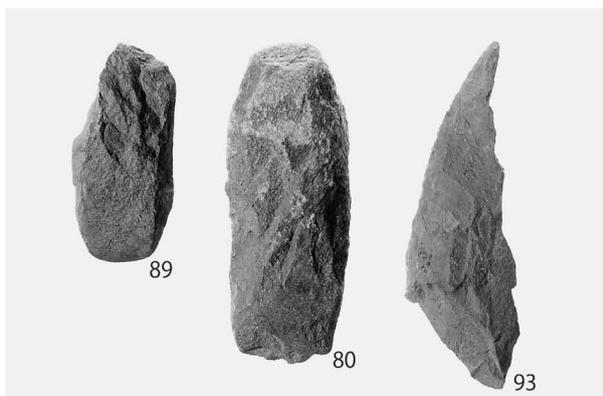
古墳時代中期土器



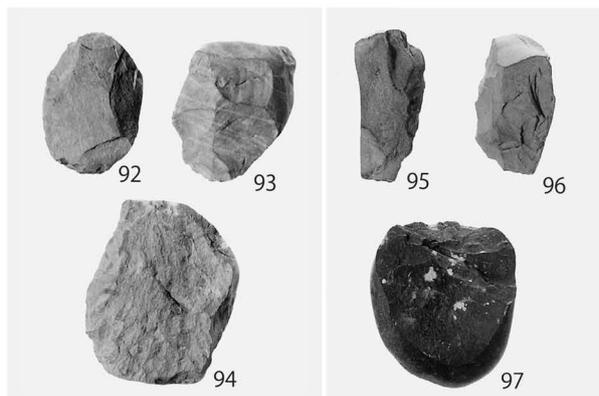
縄文時代早期石鍬



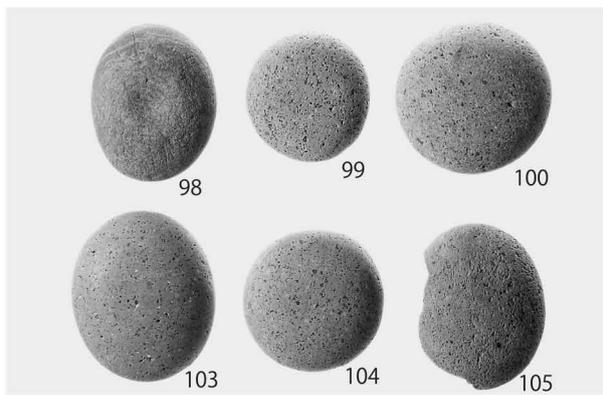
縄文時代早期剥片・スクレイパー



縄文時代早期石斧



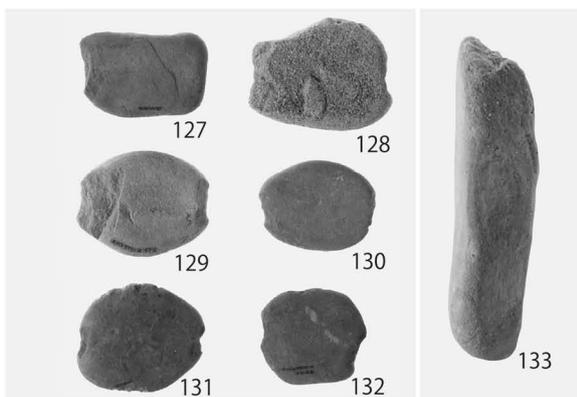
縄文時代早期石核・二次加工剥片



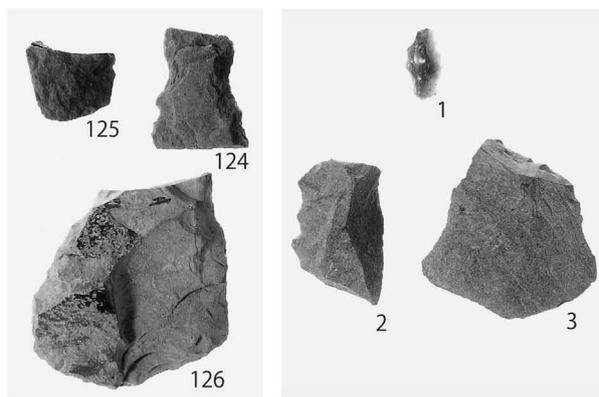
縄文時代早期磨石



縄文時代早期敲石・赤色顔料? 付着石器



縄文時代晩期石錘・砥石



縄文時代晩期石鍬

旧石器時代石器

報告書抄録

ふりがな	おこぼるいせき (だいさんじちょうさ)							
書名	尾小原遺跡 (第三次調査)							
副書名	東九州自動車道 (都農～西都間) 建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 45							
シリーズ名	宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書							
シリーズ番号	第 150 集							
執筆・編集 担当者名	岡田 諭							
発行機関	宮崎県埋蔵文化財センター							
所在地	〒 880-0212 宮崎市佐土原町下那珂 4019 番地							
発行年月日	2007 年 3 月 9 日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
おこぼるいせき 尾小原遺跡	みやざきけん 宮崎県 こゆぐん 児湯郡 しんとみちよう 新富町 おおあざにゆうた 大字新田 あざおこぼる 字尾小原	45401		32° 05' 29"	131° 25' 49"	2004.12. 1 } 2005. 5.13	2,000m ²	東九州自動車道 (都農～西都間) 建設に伴う発掘 調査
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物				
集落跡	旧石器時代 縄文時代早期 縄文時代晩期 古墳時代中期 近代	集石遺構 65 基・ 炉穴 7 基・土坑 3 基・ 碎片集中箇所 2 箇所 集石遺構 1 基		角錐状石器 押型文土器・貝殻条痕文土器・無文土器・ 石鏃・石錐・スクレイパー・石斧・石核・ 磨石・敲石・赤色顔料? 付着石器 孔列文土器・無文土器・石鍬・石錘・ 砥石 土師器甕 12.7mm 重機関銃弾薬莖				

宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第 150 集

尾小原遺跡（第三次調査）

東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書 45

2007 年 3 月 9 日

発 行 宮崎県埋蔵文化財センター

〒 880-0212 宮崎市佐土原町下那珂 4019 番地
TEL 0985(36)1171 FAX 0985(72)0660

印 刷 田中印刷有限公司

〒 880-0022 宮崎県宮崎市大橋3丁目110番地
TEL 0985(28)4724 FAX 0985(22)9285
